



公益社団法人
日本学生陸上競技連合

会報

向上と進展



[発行所] 公益社団法人 日本学生陸上競技連合
〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-11 中沢ビル2階
TEL 03-5304-5542 FAX 03-5304-5569

2025年度を迎えて

会長 松本 正之

新しい年度が始まり、皆様におかれましては心持ちも新たにシーズンをお迎えのことと思います。また、平素より日本学生陸上競技連合の運営に対し格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年度も関係者の皆様のお力添えにより、本連合主催競技会を開催することができました。

6月に開催した2024日本学生陸上競技個人選手権大会と、9月に開催した天皇賜杯第93回日本学生陸上競技対校選手権大会では、それぞれ日本学生記録やU20日本記録など好記録が多く樹立され、日本学生陸上界のレベル向上を感じさせる大会となりました。

また、2月には男子の学生ハーフマラソン選手権大会を、国内屈指の高速コースである香川丸亀国際ハーフマラソンと併催という形で開催いたしました。日本記録も生まれたこの大会で、学生たちも日本のトップ選手たちに食らいつき、素晴らしい走りを見せてくれました。

さて、今年はFISUワールドユニバーシティゲームズ(ドイツ/ライン・ルール)が開催されるとともに、9月には東京世界選手権、来年9月には名古屋でアジア大会の開催が予定されております。WUGに選ばれた選手は、日本学生陸上界の代表として、自信と誇りをもって世界の舞台でも戦ってほしいと思います。そして、世界の舞台での経験を生かして、東京世界選手権にも1名でも多くの学生競技者が出場し、開催国の代表として、世界最高峰の舞台でも活躍してくれることを期待します。そのためにも、競技者諸君は、日々の努力を惜しむことなく、それぞれの目標に向かって進んでほしいと思います。

今年度の本連合主催競技会は、4月25日(金)～27日

(日)の2025日本学生陸上競技個人選手権大会から始まり、天皇賜杯第94回日本学生陸上競技対校選手権大会は例年よりも早い6月5日(木)～8日(金)にJFE晴れの国スタジアム(岡山県岡山市)で開催いたします。そして、8月9日(土)には日本GPシリーズにもなっている秩父宮賜杯第65回実業団・学生対抗陸上競技大会を開催いたします。

秋の駅伝シーズンは、今年も10月の出雲全日本大学選抜駅伝競走(島根・出雲市)からスタートし、同月の全日本大学女子駅伝対校選手権大会(宮城・仙台市)、11月の全日本大学駅伝対校選手権大会(愛知・名古屋市～三重・伊勢市)、そして12月の全日本大学女子選抜駅伝競走(静岡・富士宮市～富士市)と続きます。選手たちの力強い走りは、全国のテレビ中継や配信を通じて全国の学生駅伝ファンを惹きつけるものと思います。

そして、駅伝シーズンが終わると、2月には男子の学生ハーフマラソン選手権(香川・丸亀市)、3月には女子の学生ハーフマラソン選手権(島根・松江市)、学生20km競歩選手権(石川・能美市)と続きます。さらに、これらの全国大会と並行して、各地区学連や各大学においてもそれぞれの主催大会や全国大会の予選を兼ねた大会が開催されます。そのすべての大会で、選手の皆さんが日頃の鍛錬の成果を遺憾なく発揮し、「向上と進展」の旗の下、陸上競技を通じて一人ひとりが、陸上競技者としてだけでなく学生として一層成長できる充実の1年となるよう願っています。

最後になりますが、学生陸上競技を支えていただいている関係の皆様には、今年もより一層のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

公益社団法人 日本学生陸上競技連合

会報 第173号 (令和7年5月15日発行)

向上と進展

目 次

会長あいさつ 松本正之	1
-------------------	---

【大会報告】

第27回日本学生ハーフマラソン選手権大会	3
第108回日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走	4
東京マラソン2025	5
第19回日本学生20km競歩選手権大会	6
第28回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会	7
2025日本学生陸上競技個人選手権大会	8

【会議報告】

第70回理事会	11
第71回理事会	15
第72回理事会	27
第73回理事会	29
令和6年度第70回指導者会議	30
第50回学生幹部役員研修会	32
2024年日本学生新記録章贈与式	32

【その他】

競技委員会より	33
普通会員数報告	34
賛助会員募集／入会報告／編集後記	35

【大会報告】

第28回日本学生ハーフマラソン選手権大会

幹事長 三浦 拓也

1. 大会名：第28回日本学生ハーフマラソン選手権大会
2. 大会期日：2025年2月2日（日）
3. 場所：香川県・丸亀市 香川県立丸亀競技場付属ハーフマラソンコース
4. エントリー数：311名（完走者数206名）
5. 派遣役員（敬称略）：計11名
有吉 正博、関根 春幸、山下 誠、大後 栄治、
鶴崎 健一、伊東 輝雄、大西 清司、河野 匠、
三浦 拓也、横川 侑香、桑原 悠真

6. 大会総括

2月2日、香川県丸亀市において日本屈指の好タイムが出ることで知られる、香川県立丸亀競技場付属ハーフマラソンコースを舞台に第28回日本学生ハーフマラソン選手権大会（併催：香川丸亀国際ハーフマラソン 以下、丸亀ハーフ）が開催されました。

昨年度までは、東京都立川市で行われる立川シティハーフマラソンと併催という形で開催していましたが、今年から丸亀ハーフへ舞台を移し、歴史を繋いでいく運びとなりました。記念すべき1回目は前日まで雨が降り、当日のコンディションが心配されましたが、レース前には完全に雨が上がり、気温もそこまで上がりず絶好のコンディションでスタートを迎えることができました。実業団選手を含めた先頭集団に山川拓馬選手（駒澤大）や馬場賢人選手（立教大）、上原琉翔選手（國學院大）などの選手がつき、5km地点を14分05秒～06秒で通過し、積極的なレース運びを見せました。

先頭集団は10km地点を、28分02秒で通過しました。日本記録ペースで推移する先頭集団に学生選手権出場者からはただ1人、馬場選手が食らいつき、勇猛果敢な走りを見せます。後続では、4秒遅れて10kmを通過した上原選手が粘りの走りを見せる中、後ろの集団から上がってきた帰山侑大選手（駒澤大）が野中恒亭選手（國學院大）と共に前を行く上原選手を捕らえ、3人の集団で上位進出を伺います。

15km地点では、先頭集団からわずかに遅れる形となりましたが馬場選手が依然として学生選手権トップをキープし、5秒遅れて帰山選手が続きます。3番手にはここまで後続集団に身を潜めていた、工藤慎作選手

（早稲田大）が徐々にギアチェンジを始めます。20km手前で工藤選手がスパートをかけ、20km通過時点で学生選手権トップに躍り出ます。2位には馬場選手、3位には再度浮上してきた上原選手が続きます。その順位のまま、工藤選手が従来の日本記録まであと6秒に迫る1時間0分06秒で優勝し、圧倒的な強さを見せました。2位には終始積極的な走りを見せた馬場選手、3位には帰山選手とのスパート合戦で先着した上原選手が入りました。前回大会覇者の青木瑠郁選手（國學院大）は7位でフィニッシュし、2連覇達成とはなりませんでした。

今大会では、47位までに入った選手が1時間1分台を記録する、ハイレベルな超高速レースとなりました。丸亀ハーフ全体としては、太田智樹選手（トヨタ自動車）が59分27秒でフィニッシュし、従来の日本記録を33秒更新する素晴らしいパフォーマンスを披露しました。学生選手権には出場していなかったものの、篠原倅太朗選手（駒澤大）も59分30秒という圧巻の走りを見せ、日本記録の更新はもちろん、日本学生記録を更新する走りで大学ラストランを締めくくりました。

年々、レベルが上がっていく学生長距離界において、今回記録された結果の数々は通過点に過ぎません。出場した選手が2025年シーズンの学生長距離界を、今後さらに、どのように盛り上げていってくれるのかという期待が高まるばかりです。今大会は舞台を移した学生ハーフにとって、充実した再スタートをきることができたと感じることができる、素晴らしい大会となりました。



日本学生ハーフを制した工藤慎作（早稲田大、左）。その右は2位の馬場賢人（立教大）

【大会報告】

第108回日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走

九州学連幹事長 小崎 康志郎

1. 大会名：第108回日本学生陸上競技選手権大会
クロスカントリー競走
2. 大会期日：2025年2月22日（土）
3. 場所：福岡県福岡市 海の中道海浜公園クロスカントリーコース
4. 派遣役員（敬称略）：計4名
岩元 慎一、片平 誠人、松永 昂大、小崎 康志郎
5. 競技結果（学生抜粋／下表参照）
6. 大会総括

2月22日（土）、福岡県海の中道海浜公園クロスカントリーコースにて、第108回日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走が開催された。悪天候が予想されたが当日は、気温は低かったものの晴天に恵まれ、競技に適した天候の下での競技会だった。本大会では海の中道海浜公園の使用規則に則り、円滑な大会運営が行われた。

13時50分にシニア女子8kmの部が一斉にスタートした。序盤から中馬蘭菜選手（しまむら）、川口桃佳選手（ユニクロ）、信櫻空選手（横浜市陸上競技協会）などがレースを引っ張る展開となった。先頭集団が徐々に絞られ、10名ほどで2周目に入った。2周目は先頭が入れ替わりながらも集団の人数は変わらなかったが、3周目は終盤に信櫻選手がリードを広げた。4周目、先頭集団は川口選手、信櫻選手、鈴木杏奈選手（しまむら）に絞られ、川口選手が信櫻選手に6秒差をつけ26

分25秒でフィニッシュした。

学生では、序盤から上位をキープした白川朝陽選手（筑波大）が学生トップの10位でフィニッシュした。白川選手には日本学生陸上競技連合杯が授与された。また、一時先頭集団で走った山本柚未選手（立命館大）が学生2位、小松夕夏選手（筑波大）が学生3位になった。学生上位8名は全員が27分台でフィニッシュし、実業団選手に引けを取らない活躍が光るレースとなった。

14時25分にシニア男子10kmのレースがスタートした。序盤から柴田侑選手（城西大）が飛び出し、吉岡大翔選手（順天堂大）、佐藤榛紀選手（東京国際大）も先頭で争う姿が見られた。2周目でも先頭は縦長の大きい集団で、吉岡選手や前回大会2位の井川龍人選手（旭化成）がレースを引っ張っていた。3周目になると先頭集団が13名ほどになり、新家祐太郎選手（愛三工業）が先頭を引っ張る形となった。学生では吉岡選手、伊藤蒼唯選手（駒澤大）が先頭集団に食らいついていた。3周目終盤に入ると塩尻和也選手（富士通）がレースを引っ張り、先頭集団が5名ほどに絞られた。4周目からは井川選手、塩尻選手、伊藤選手、三浦龍司選手（SUBARU）が激しい先頭争いを繰り広げ、終盤は井川選手と三浦選手が激しい優勝争いを展開。ラストスパート合戦を制した三浦選手が28分24秒で優勝した。その1秒後に井川選手が2位でフィニッシュした。

学生では、終盤まで先頭争いを繰り広げていた伊藤選手が28分35秒の4位でフィニッシュし、学生1位となった。伊藤選手には日本学生陸上競技連合杯が授与された。学生2位は吉岡選手で28分53秒、佐藤選手が学生3位に入った。学生上位8名は全員、28分台及び29分台でフィニッシュし、学生上位4名が昨年の優勝者の記録を上回る非常にレベルの高いレースであった。また、社会人選手を相手に学生が積極的に先頭集団を引っ張るというレース展開が印象的であった。

総評して、学生陸上界のレベルの高さがより一層際立ったレースであった。

日本選手権クロカンのシニア男子10kmで学生トップの4位に入った伊藤蒼唯選手（駒澤大、左端）



■シニア男子10km上位成績（学生上位8名）

順位	氏名	フリガナ	所属	記録
4	伊藤 蒼唯	イトウ アオイ	駒澤大学	28:35
6	吉岡 大翔	ヨシオカ ヒロト	順天堂大学	28:53
9	佐藤 榛紀	サトウ ハルキ	東京国際大学	29:07
11	村尾 雄己	ムラオ ユウキ	順天堂大学	29:13
18	永原 颯磨	ナガハラ ソウマ	順天堂大学	29:36
19	松井 海斗	マツイ カイト	東洋大学	29:43
21	山本 涼介	ヤマモト リョウスケ	環太平洋大学	29:43
23	安原 海晴	ヤスハラ カイセイ	駒澤大学	29:46

■シニア女子8km上位成績（学生上位8名）

順位	氏名	フリガナ	所属	記録
10	白川 朝陽	シラカワ アサヒ	筑波大学	27:00
14	山本 柚未	ヤマモト ユミ	立命館大学	27:10
16	小松 夕夏	コマツ ユウカ	筑波大学	27:11
17	浜野 光	ハマノ ヒカル	中央大学	27:21
20	武田 胡春	タケダ コハル	中央大学	27:34
22	石引 稚菜	イシビキ ワカナ	順天堂大学	27:43
24	宮定 愛実	ミヤサダ アミ	神戸学院大学	27:50
26	木下 紗那	キノシタ スズナ	中央大学	27:58

【大会報告】 東京マラソン2025

副幹事長 桑原 悠真

1. 大会名：東京マラソン2025
2. 大会期日：2025年3月2日（日）
3. 日本学連推薦選手：男子6名（成績は下表参照）
4. 大会総括

東京都庁前を9時10分にスタートし、日本橋、浅草、東京スカイツリー、銀座、東京タワーなどの東京の名所を駆け抜け、東京駅前でフィニッシュとなるコースを約3.8万人のランナーが駆け抜けました。スタート時の天候は晴れ、気温14℃、湿度41%という例年よりも高い気温となり、昼頃になるにつれて日差しも強まるコンディションとなりました。

本連合からは準エリート枠に下表の計6名の選手を推薦し、5名の選手が出場しました。

レースは、2時間1分台のペースで設定されたペースメーカーを先頭とする第1集団に、海外招待選手と太田蒼生選手（青山学院大）が続ぎ、2時間3分台に設定された第2集団には海外招待選手に加え、赤崎暁選手（九電工）、池田耀平選手（Kao）、浦野雄平選手（富士通）といった選手が続く展開となりました。しかし、太田選手は20km過ぎで先頭集団から遅れ始め、36kmで途中棄権となりました。

先頭集団では厳しい揺さぶりが何度も見られ、それを制したタデセ・タケレ選手（エチオピア）が2時間3分23秒で優勝しました。後続の日本人トップ争いは赤崎選手、池田選手、浦野選手が繰り広げましたが、赤崎選手が後退し、後ろの第3集団から市山翼選手（サンベルクス）、井上大仁選手（三菱重工）らが追い上げを見せました。そして、第3集団から抜け出した市山選手がグングン前を追い、39km過ぎに浦野選手を抜き去ると、40km手前では池田選手も抜いて日本人トップに立ち、東京世界選手権の参加標準記録を突破する2時間6分00秒でフィニッシュしました。

■東京マラソン2025 日本学連準エリート枠推薦選手

順位	選手名	大学名	学年(当時)	記録
69	大田和一斗	専修大学	4	2時間17分39秒
78	西久保雄志郎	帝京大学	4	2時間18分58秒
90	溝上 稔斗	明治大学	4	2時間20分25秒
101	渡邊 隼翼	札幌学院大学	4	2時間21分22秒
621	中田千太郎	立命館大学	4	2時間45分13秒
欠場	山崎 樹羅	札幌学院大学	4	—

学生競技者では、2時間14分36秒で総合49位だった古川大晃選手（東京大）が学生トップを勝ち取りました。また、本連合推薦選手では大田和一斗（専修大）が最上位となる総合69位の2時間17分39秒でフィニッシュし、やや厳しいコンディションとなった中、全選手が完走しました。

女子はストゥメ・アセファ ケベデ選手（エチオピア）が2時間16分31秒の好タイムでフィニッシュし、日本人トップは安藤友香選手が2時間23分37秒でフィニッシュしました。

今大会は学生競技者が社会人選手たちの大きな壁に阻まれた形となりましたが、近年は男子マラソンで立て続けに日本学生記録が更新されるなど、学生競技者も着実に力をつけています。日本のマラソン界全体として競技力の向上が著しい中、学生競技者も積極的にマラソンに挑戦し、自身の可能性を広げていってほしいと思います。



学生トップの49位でフィニッシュした古川大晃選手（東京大）。ネクストジェネレーション賞を受賞した

【大会報告】

第19回日本学生20km競歩選手権大会

常任幹事 横川 侑香

1. 大会名：第19回日本学生20km競歩選手権大会
兼FISUワールドユニバーシティゲームズ(2025/ライン・ルール)日本代表
選手選考競技会
2. 大会期日：2025年3月16日(日)
3. 場 所：石川県・能美市 能美市営20kmコース
4. エントリー数：男子54名、女子32名
5. 派遣役員(敬称略) 計6名
福島 洋樹、町田 紀子、大西 清司、横川 侑香、
河本 賀帆、漆原 幹人
6. 大会総括

3月16日、石川県能美市にて、第19回日本学生20km競歩選手権大会が、第49回全日本競歩能美大会との併催で行われました。本大会は2025年7月にドイツで行われるFISUワールドユニバーシティゲームズ(2025/ライン・ルール)の日本代表選手選考競技会も兼ねた大会でした。

雨が降り、気温が非常に低い中、午前10時40分、男子がスタートしました。スタート後、前川悠雅選手(東海大)が社会人選手に食らいつき先頭集団でレースを進めました。その後、5km付近で原圭佑選手(京都大)、土屋温希選手(立命館大)、吉迫大成選手(東京学芸大)が先頭集団に追いつき、大きな集団を

形成しました。13kmあたりからに集団の人数が減り、先頭集団には実業団選手のみとなり、学生の選手で第2集団を形成しました。

15km付近で原選手が学生トップで独歩をし、勢いそのままに1時間19分40秒をマークして全日本3位でフィニッシュしました。学生2位には吉迫選手、そして学生3位は土屋選手と続きました。

1分後にスタートした女子のレースは、併催されたアジア選手権の日本代表を背負った柳井綾音選手(立命館大)がレースを引っ張り、そのまま1時間30分25秒で学生、全体ともに優勝を飾りました。柳井選手は第17回学生競歩以来2年ぶりに優勝を飾りました。

学生2位は7kmまで先頭集団でレースを進めた谷純花選手(金沢学院大)、学生3位に石田さつき選手(武庫川女子大)と続きました。

20km競歩は、2023年のFISUワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都)で男子団体が銀メダルを獲得、2月に日本人選手が世界記録を更新するなど注目度の高い種目の1つとなっております。今後も男女ともに世界トップレベルの競技会での活躍が期待されます。



中央が優勝した原圭佑選手(京都大)。原を挟んで右が土屋温希選手(立命館大)、左が吉迫大成選手(東京学芸大)
写真/フォート・キンモト

【大会報告】

第28回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会

常任幹事 村上 奈穂

1. 大会名：第28回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会兼FISUワールドユニバーシティゲームズ(2025/ライン・ルール)日本代表選手選考競技会

2. 大会期日：2025年3月16日(日)

3. 場所：鳥根県・松江市 まつえレディースハーフマラソンコース

4. エントリー数：65名(完走者数38名)

5. 派遣役員(敬称略)：計11名

有吉 正博、永井 純、関根 春幸、山下 誠、
鶴崎 健一、和田 正信、河野 匠、桑原 悠真、
村上 奈穂、藤岡 奈乃子、葉玉 純

7. 大会総括

鳥根県松江市まつえレディースハーフマラソンコースにて、岸清一賞国際文化観光都市第46回まつえレディースハーフマラソンと併催して、女子ロードシーズンを締めくくる第28回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会兼FISUワールドユニバーシティゲームズ(2025/ライン・ルール)日本代表選手選考競技会が2年ぶりに開催されました。10時02分に国宝・松江城下大手前を出発した41名の学生女子ランナーが、早春の城下町を一斉に駆け出していきました。

14km地点までは10名ほどの大きな先頭集団がレースをリードする展開となりました。その後、学生先頭集団は徐々に数を減らし、土屋舞琴選手(立命館大)、野田真理耶選手(大東文化大)、前田彩花選手(関西大)、高橋葵選手(城西大)、丸毛萌愛

選手(駿河台大)の5名に絞られました。しかし、終盤で土屋舞琴選手が抜け出し、1時間12分04秒でフィニッシュしました。続いて、野田選手が学生2位、高橋選手が学生3位でフィニッシュし、FISUワールドユニバーシティゲームズ(2025/ライン・ルール)の日本代表選手として内定いたしました。

この大会には実業団の選手も参加し、学生にとってはトップアスリートと一緒に競い合える貴重な経験になったことと思います。また、大会当日は気温が低く、冷たい雨が降る厳しいコンディションではありましたが、全体結果でも上位8位までに7名の学生が入賞するなど、トップアスリートにも負けない走りで学生の強さを見せつけてくれました。若手ランナーの世界への登竜門とも称される本大会に出場した多くの選手が、世界の舞台に向けて今後も活躍することを期待しております。

最後になりましたが、今大会が無事に開催できたのは、国際文化観光都市まつえレディースハーフマラソン実行委員会の方々や、一般財団法人鳥根陸上競技協会、地域の方々など今大会に関わってくださったすべての方からのご支援・ご協力によるものです。この大会がさらに発展し、陸上界の盛り上がりにつながるよう、今後ともよろしくお願いいたします。



トップ3に入り、ワールドユニバーシティゲームズ代表推薦を受けた3選手。左から土屋舞琴(立命館大)、野田真理耶(大東文化大)、高橋葵選手(城西大)

【大会報告】

2025日本学生陸上競技個人選手権大会

幹事長 三浦 拓也

1. 大会名：2025日本学生陸上競技個人選手権大会兼FISUワールドユニバーシティゲームズ(2025/ライン・ルール)日本代表選手選考競技会
2. 大会期日：2025年4月25日(金)～27日(日)
3. 場所：神奈川・レモンガススタジアム平塚(ハンマー投は東海大学湘南校舎陸上競技場)
4. エントリー数：男子549名、女子538名
5. 大会総括

レモンガススタジアム平塚(男女ハンマー投：東海大学湘南校舎陸上競技場)にて2025日本学生陸上競技個人選手権大会が行われました。今大会は7月に行われる、FISUワールドユニバーシティゲームズ(2025/ライン・ルール 以下、WUG)の日本代表選手選考競技会を兼ねて開催され、全国から日本代表の座を狙う精鋭達が平塚に集い、例年に比べて緊張感が高まる大会となりました。今大会のレベルの高さの証明として、9種目で大会新記録(タイ記録を含む)が樹立され、好記録が続出した大会となりました。

今大会のレモンガススタジアム平塚は好天に恵まれ、1日目には男子110mハードル準決勝で阿部竜希選手(順天堂大)が東京世界選手権の参加標準記録を突破する13秒26をマークしました。女子100mハードル準決勝では、平塚名物の追い風を受けた本田怜選手(順天堂大)が自身の持つ学生記録に0.01秒と迫る13秒08という素晴らしいタイムで走破し、大会記録を更新しました。女子1500mでは2名が大会記録を更新し、太田垣楓華選手(園田学園大)がラスト100mで前を走る選手を抜き去る、見事なラストスパートで優勝を果たしました。WUGの選考会として行われた女子10000mでは、多数の有力選手が集まる中、関西大が誇るエース・前田彩花選手が、同じくWUG選考会として3月に開催された日本学生女子ハーフマラソンで代表入りを逃した悔しさを晴らす快走で見事優勝を果たし、日本代表の座を手中に収めました。男子砲丸投では、アツオビン・ジェイソン選手(福岡大)が2位以下を寄せ付けず圧倒

の投てきで2連覇を果たし、格の違いを見せつけました。

2日目は、東海大学湘南校舎陸上競技場にて男女ハンマー投が行われました。男子は垂井祐志選手(四国学院大)が自身の持つ中国四国学生記録を更新して優勝。女子は村上来花選手(九州共立大)が安定の投てきで見事3連覇を果たし、女王の座を譲りませんでした。また、男子10000m競歩では、逢坂草太郎選手(東洋大)が吉迫大成選手(東京学芸大)とのデッドヒートを制し、従来の大会記録を1分以上更新するパフォーマンスで優勝しました。女子走高跳では伊藤楓選手(日本体育大)が大会タイ記録で優勝し、2年ぶりに女王の座に返り咲きました。

3日目に行われた男子800mでは落合晃選手(駒澤大)、同種目前年度覇者である岡村颯太選手(鹿屋体育大)、1日目に行われた1500mを制した前田陽向選手(環太平洋大)を中心にレベルの高いレースとなりました。落合選手がレースを引っ張る展開となり、その勢いのまま他の選手を寄せ付けず圧倒的な走りで行き届いた大会記録を記録し、優勝しました。男子走高跳では原口颯太選手(順天堂大)が昨年度の大会で自身が記録した大会記録を2cm更新する2m25cmを叩き出し、大会2連覇を果たしました。

2月～3月にかけて行われた男女のハーフマラソン選手権から始まった、WUGの選考競技会は今大会をもって幕を閉じ、47名の選手が日本代表選手として選考されました。WUGは7月に開催されます。今回、日本代表に選出された選手は、日の丸の誇りを胸にドイツの地で躍動してくれることは間違いないと感じています。また、今大会で悔しい思いをした選手、納得のいく結果を残すことのできなかった選手は、6月に行われる日本ICをリベンジの場として捉え、再チャレンジしてほしいと強く願っています。

今年は東京で世界選手権が開催され、本大会で活躍した選手たちの出場も期待されます。今後開催される、世界大会に本競技会を足掛かりとして多くの選手が羽ばたいていくことを心の底から期待しています。



男子110mH準決勝(写真)で東京世界選手権の参加標準記録を突破する13秒26(+0.7)をマークした阿部竜希(順天堂大、左)。決勝も13秒30(+1.3)で快勝した



女子100mHは島野真生(日本女子体育大院、右)が学生歴代2位の13秒10(+0.3)で、準決勝で13秒08の大会新記録を出していた本田怜(順天堂大院)を0.02秒抑えた。島野は4月29日の織田記念で13秒04(+1.8)の学生記録をマーク



男子100mは大石凌功(東洋大)が10秒19(+0.8)で初V。決勝を棄権した柳田大輝(東洋大)は準決勝で10秒09(+1.8)をマークしている



日本記録保持者の落合晃(駒澤大)は今季初戦の800mで1分45秒88でV。東京世界選手権の開催国枠エントリー設定記録に到達した

男子は原口颯太(順天堂大)が2m25で自らの大会記録を更新した



日本学生個人選手権

4月25日～27日 神奈川・平塚、ハンマー投のみ東海大

男 子

●100m(+0.8)・26日

①大石凌功 (東洋大3)	10.19
②灰玉平侑吾 (順天堂大M1)	10.24
③西岡尚輝 (筑波大1)	10.28
④守 祐陽 (大東文化大4)	10.30
⑤愛宕 頼 (東海大4)	10.32
⑥アブラハム光オシナチ (関西大1)	10.38
⑦木梨嘉紀 (筑波大M2)	10.40
柳田大輝 (東洋大4)	棄権

●200m(+1.2)・27日

①齋岐元太 (京都産業大4)	20.65
②植松康太 (中央大2)	20.81
③木村峻也 (日本大3)	20.85
④打田快生 (順天堂大3)	20.88
⑤横山大空 (中京大4)	21.01
⑥田中統也 (岡山商科大M1)	21.02
⑦エケ・ジュニア瑠音 (中央大3)	21.09
⑧川津靖生 (明治大3)	21.23

●400m・26日

①平川 慧 (東洋大2)	46.63
②田邊 奨 (中央大2)	47.11
③山本諒心 (東洋大3)	47.29
④森田陽樹 (早稲田大3)	47.29
⑤林 申雅 (筑波大3)	47.31
⑥吉川 峻 (筑波大M2)	47.43
⑦山崎雄雅 (東洋大3)	47.67
⑧白畑健太郎 (東洋大2)	48.20

●800m・27日

①落合 晃 (駒澤大1)	1.45.88
②岡村颯太 (鹿屋体育大3)	1.47.04
③前田陽向 (環太平洋大4)	1.47.19

以上大会新

④木佐亮太 (筑波大5)	1.48.28
⑤水野瑛人 (中京大2)	1.48.48
⑥寺西満輝 (青山学院大4)	1.49.14
⑦東 秀太 (広島経済大3)	1.50.64
⑧小瀬堂大 (順天堂大3)	1.55.08

●1500m・25日

①前田陽向 (環太平洋大4)	4.03.64
②大野聖登 (順天堂大3)	4.03.85
③塩原 匠 (順天堂大4)	4.04.32
④青木龍翔 (立教大3)	4.05.17
⑤小川拓海 (順天堂大3)	4.05.91
⑥田村亘之介 (城西大1)	4.06.17
⑦大場崇義 (城西大2)	4.06.19
⑧宮本 凜 (城西大3)	4.06.52

●5000m・27日

①松井海斗 (東洋大2)	13.44.59
②鈴木流帆 (早稲田大1)	13.44.83

以上大会新

③大島史也 (法政大4)	13.56.53
④宇田川瞬矢 (青山学院大4)	14.00.74
⑤折田壮太 (青山学院大2)	14.31.46
⑥濱口大和 (中央大1)	14.42.57
平松享祐 (青山学院大3)	途中棄権
●10000m・25日	
①伊藤善唯 (駒澤大4)	28.53.75
②野中恒幸 (國學院大3)	28.57.65
③山口翔輝 (創価大4)	28.59.05
④山崎 丞 (日本体育大4)	29.00.16
⑤小池 綾 (創価大3)	29.00.16
⑥岡田開成 (中央大2)	29.01.01
⑦桑田駿介 (駒澤大2)	29.01.54
⑧吉岡大翔 (順天堂大3)	29.02.14

●1100m H(+1.3)・26日

①阿部竜希 (順天堂大4)	13.30
②樋口隼人 (筑波大4)	13.42
③西 徹朗 (早稲田大4)	13.56
④似内陸斗 (岩手大4)	13.64
⑤松本 望 (法政大4)	13.69
⑥小池 綾 (法政大3)	13.71
⑦山中恭介 (法政大2)	13.82
⑧田原佳梧 (立命館大4)	13.92

●400m H・27日

①高橋遼将 (法政大4)	49.41
②洲上翔太 (早稲田大2)	49.57
③盛岡優喜 (早稲田大4)	49.66
④小川大輝 (東洋大4)	49.75
⑤菅野新平 (筑波大M1)	50.40
⑥柳田聖人 (東洋大3)	50.84
⑦紺野稜真 (筑波大3)	52.53
⑧下田隼人 (東洋大2)	53.89

●3000m S C・27日

①佐々木哲 (早稲田大1)	8.36.30
②黒木陽向 (創価大4)	8.38.19
以上大会新	
③柴田大地 (中央大3)	8.43.03
④永原颯磨 (順天堂大2)	8.46.16
⑤小林周太郎 (明治大3)	9.02.89
⑥緒方 快 (関東学院大4)	9.05.74
⑦本間 創 (青山学院大3)	9.09.11

⑧尾島 樹 (上武大2)

●10000m W・26日

①逢坂草太朗 (東洋大2)	38.44.88
②吉迫大成 (東京学芸大3)	38.54.08
③金子 陸 (国士館大2)	39.22.02
④中島佑之 (山梨学院大3)	39.25.15
以上大会新	
⑤平賀丈也 (びわこ成蹊スポーツ大3)	40.09.41
⑥長田隼人 (明治大3)	40.17.62
⑦高田智生 (立命館大2)	40.31.23
⑧梅田和宏 (日本大3)	40.31.91

●走高跳・27日

①原口颯太 (順天堂大3)	2.25
＝大会新	

●走高跳・26日

②山中 駿 (京都大M1)	2.16
③中谷魁聖 (東海大1)	2.16
④本田基偉 (岐阜大M2)	2.13
⑤富士 湊 (東海大2)	2.13
// 須崎遥也 (慶應義塾大3)	2.13
⑦チュクネレ・ジョエル優人 (筑波大3)	2.13
⑧宮田 風 (日本大M2)	2.13
●棒高跳・25日	
①原口篤志 (東大阪大4)	5.50
②松井駿斗 (筑波大M2)	5.30
③渡邊瑛斗 (筑波大3)	5.30
④松井楓雅 (日本体育大4)	5.30
⑤篠塚浩斗 (青英大4)	5.30
⑥吉田陸哉 (関西大3)	5.20
⑦村社亮太 (日本大2)	5.10
⑧谷口海斗 (中京大1)	5.10

●走高跳・26日

①藤原孝輝 (東洋大M1)	7.70(+1.1)
②中尾泰思 (東海大3)	7.64(+3.0)
③北川 凱 (東海大4)	7.63(+2.4)
④高橋朝陽 (東海大3)	7.57(+1.7)
⑤元木涼介 (日本大2)	7.50(+0.8)
⑥田中瑛一 (東洋大3)	7.49(+3.4)
⑦大西勤也 (天理大2)	7.46(+1.0)
⑧成川俊士 (順天堂大1)	7.44(+1.6)

●三段跳・27日

①安立雄斗 (福岡大M2)	16.30(+1.1)
②深井敦史 (九州共立大M2)	16.08(+1.7)
③宮尾真仁 (東洋大3)	15.89(+2.7)
④神谷海成 (東海学園大4)	15.89(+2.8)
⑤金井晃希 (順天堂大3)	15.86(+3.0)
⑥白濱稔也 (日本大4)	15.78(+1.5)
⑦城崎晃吾 (東洋大4)	15.58(+2.7)
⑧西ヶ谷泰汰 (岐阜協立大4)	15.52(+3.4)

●砲丸投・25日

①アツオビン・ジェイソン (福岡大M1)	18.39
②山田暉斗 (法政大3)	17.88
③黒田翔貴 (大阪体育大M2)	16.52
④泊 瑠平 (環太平洋大3)	16.27
⑤仁木星之介 (四国大1)	15.82
⑥木幡駿平 (東海大3)	15.75
⑦紫田大二郎 (東海大3)	15.41
⑧照屋瑠亜 (国士館大3)	15.14

●円盤投・27日

①中町真直 (新潟医療福祉大M2)	56.10
②藤原孝史朗 (九州共立大M2)	55.35
③山口翔輝 (筑波大3)	51.72
④鴨澤青海 (東海大M2)	51.21
⑤遠山悠朗 (東海大4)	49.39
⑥原田優飛 (日本体育大4)	48.99
⑦井上源稼 (九州共立大4)	48.96
⑧益井晴輝 (筑波大3)	47.86

●ハンマー投・26日

①垂井祐志 (四国学院大4)	67.68
②坂梨航琉 (環太平洋大M1)	66.86
③山川晃心 (中京大M2)	66.17
④小島諒大 (中京大4)	65.73
⑤喜多 翼 (四国大4)	63.06
⑥アツオビン・アンドリュウ (九州共立大1)	61.71
⑦吉岡暉人 (岐阜協立大4)	61.49
⑧秋山玲二郎 (四国学院大3)	61.27

●やり投・25日

①鈴木 凜 (九州共立大M1)	76.95
②清川裕哉 (東海大4)	74.79
③清野優喜 (筑波大3)	73.28
④須藤勇大 (大阪体育大4)	71.30
⑤山本航大 (東海大4)	70.55
⑥坂田 陽 (九州共立大3)	70.23
⑦花田李樹 (中京大M1)	69.21
⑧水落慶吾 (金沢大M2)	67.06

●十種競技・25～26日

①橋本秀汰朗 (国士館大M1)	7264
②前田和希 (国士館大3)	7199
③堀川 新 (中京大3)	7131
④新開俊智 (筑波大M2)	7068
⑤小林宏輔 (国士館大4)	6955
⑥田中廉治樹 (新潟医療福祉大M2)	6920
⑦石坂翼海 (松本大M2)	6912
⑧山本湧斗 (大阪体育大3)	6907

女 子

●100m(+2.4)・26日

①山形愛羽 (福岡大2)	11.57
②永石小雪 (立命館大4)	11.59
③奥野由萌 (甲南大4)	11.60
④柴藤 凜 (福岡大2)	11.66
⑤杉本心結 (青山学院大1)	11.66
⑥税田ジェニファー瑞美 (甲南大2)	11.72
⑦佐藤葵唯 (青山学院大3)	11.79
⑧前田美結子 (福岡大3)	11.80

●200m(+2.6)・27日

①高橋亜珠 (筑波大3)	23.55
②奥野由萌 (甲南大4)	23.83
③佐藤葵唯 (青山学院大3)	23.91
④児島柚月 (立命館大3)	23.97
⑤江原美月優 (福岡大2)	24.15
⑥永石小雪 (立命館大4)	24.26
⑦前田美結子 (福岡大3)	24.31
⑧柴藤 凜 (福岡大2)	24.48

●400m・26日

①寺本 葵 (天理大4)	54.03
②江原美月優 (福岡大2)	54.09
③瀬田陽菜 (青山学院大2)	54.68
④上島周子 (早稲田大3)	54.93
⑤佐藤志保里 (順天堂大3)	55.34
⑥宮垣有希 (同志社大4)	55.78
⑦清水奈々子 (早稲田大4)	56.48
⑧二宮綾香 (青山学院大4)	56.62

●800m・27日

①森 千莉 (至学館大2)	2.08.36
②長谷川麻央 (京都教育大4)	2.09.97
③野村いちご (順天堂大4)	2.09.98
④西田有里 (立命館大2)	2.10.11
⑤北村優衣 (福岡大3)	2.11.77
⑥松尾愛利紗 (京都教育大2)	2.12.07
⑦仲子綾乃 (慶應義塾大4)	2.14.25
⑧亀井咲里 (京都教育大2)	2.16.71

●1500m・25日

①太田垣楓華 (園田学園大3)	4.19.26
②正司瑠奈 (環太平洋大4)	4.19.94
③田島愛理 (順天堂大3)	4.20.39
以上大会新	
④尾崎真衣 (京都教育大3)	4.21.64
⑤本間 香 (城西大1)	4.21.87
⑥田中柚良 (筑波大2)	4.22.05
⑦相場奈奈 (大東文化大4)	4.22.62
⑧木下紗那 (中央大4)	4.25.06

●5000m・27日

①サラ・ワンジン (大東文化大3)	15.40.28
②浜野 光 (中央大4)	16.24.68
③今西紗世 (帝京科学大1)	16.24.99
④武田胡春 (中央大2)	16.25.36
⑤瀬木彩花 (名城大3)	16.28.54
⑥丸井萌愛 (駿河台大3)	16.30.04
⑦兼子心晴 (城西大4)	16.30.65
⑧小川陽香 (立教大3)	16.31.75

●10000m・25日

①前田彩花 (関西大3)	33.10.60
②細見芽生 (名城大1)	33.11.27
③橋本和叶 (名城大1)	33.12.65
④野田真理那 (大東文化大3)	33.18.60
⑤白川朝陽 (筑波大2)	33.29.94
⑥丸井萌愛 (駿河台大3)	33.31.00
⑦小川陽香 (立教大3)	33.31.30
⑧高橋 葵 (城西大4)	34.08.66

●100m H(+0.3)・26日

①島野真生 (日本女子体育大M2)	13.10
②本田 怜 (順天堂大M2)	13.12
③星場麗羽 (天理大4)	13.49
④福井有香 (立命館大2)	13.57
⑤安井麻里花 (青山学院大4)	13.59
⑥飯屋愛優 (日本体育大1)	13.65
⑦高見冬羽 (福岡大4)	13.68
⑧森脇叶美 (園田学園大3)	13.77

●800m H・27日

①瀧野未来 (立命館大2)	58.55
②大川寿美香 (早稲田大4)	59.11
③小笠原光咲 (福岡大3)	59.25
④千葉史織 (早稲田大2)	59.34
⑤平木 陽 (大阪成蹊大3)	60.12
⑥タネル舞舞乃 (東京学芸大4)	60.47
⑦新戸怜音 (尚美学園大4)	60.90
⑧益子芽里 (中央大4)	61.22

●3000m S C・27日

①山下彩菜 (大阪学院大4)	10.08.76
②川瀬真由 (大東文化大4)	10.13.92
③小松夕夏 (筑波大4)	10.20.47
④石引稚菜 (順天堂大4)	10.55.57
⑤石野帆奈 (東大阪大4)	11.07.12
⑥木岡優佳 (園田学園大4)	11.32.47
⑦白石憂佳 (玉川大4)	11.43.10
伊藤芽衣 (拓殖大2)	途中棄権

●10000m W・27日

①永井優倉 (金沢学大4)	46.27.24
②勝間 緑 (香川大M2)	47.04.49
③山岸芽生 (中京大4)	47.11.68
④藤原小晴 (甲南大1)	47.45.13
⑤山田佳花 (中京大3)	48.52.99
⑥大賀羽和 (中京大2)	49.10.29
⑦高尾美月 (順天堂大4)	49.17.61
⑧川邊のぞみ (名古屋大D3)	49.38.60

●走高跳・26日

①伊藤 楓 (日本体育大4)	1.81
＝大会タイ	
②矢野夏希 (早稲田大3)	1.75
③森崎優希 (日本女子体育大2)	1.70
// 川邊美奈 (順天堂大4)	1.70
⑤小林美月 (筑波大4)	1.70
// 谷口愛弥子 (筑波大2)	1.70
⑦青木萌佳 (立教大1)	1.70
⑧村村菜優 (立教大4)	1.65

●棒高跳・27日

①若林人生 (福岡大4)	4.00
②小林美月 (日本体育大3)	4.00
③佐々木琳音 (日本体育大4)	3.90
④須崎心優 (中京大4)	3.90
⑤岡田莉歩 (日本体育大2)	3.80
⑥村田蒼空 (筑波大4)	3.70
⑦鈴木彩生 (武庫川女子大2)	3.70
⑧坂田 優 (園田学園大2)	3.70

●走高跳・25日

①乙津美月 (日本女子体育大4)	6.33(+1.6)
②木村美海 (四国大M3)	6.32(+1.9)
③橋本詩音 (筑波大1)	6.12(+2.5)
④近藤いおん (日本大1)	6.12(+0.6)
⑤馬場彩香 (埼玉大4)	6.10(+2.1)
⑥山田きりり (明海大4)	6.09(+2.0)
⑦宮本乃里亜 (日本体育大2)	6.05(+1.6)
⑧中尾優花 (福岡大4)	6.02(+2.9)

●三段跳・26日

①谷本沙柚佳 (金沢大M2)	12.88(+3.7)
②廣瀬桃奈 (園田学園大3)	12.85(+0.5)
③大塚葉月 (青山学院大4)	12.77(+2.3)
④佐々木千翔 (青山学院大3)	12.65(+2.3)
⑤山中真琴 (園田学園大1)	12.49(+2.8)
⑥三浦小桜 (環太平洋大1)	12.29(+0.6)
⑦柴田藍名 (福岡大1)	12.28(+1.9)
⑧菅野未久瑠 (武庫川女子大3)	12.26(+1.6)

●砲丸投・25日

①奥山琴未 (岡山商科大3)	15.62
②坂ちはる (大阪体育大1)	15.34
③村瀬にこ (九州共立大3)	14.77
④吉沢花菜 (日本体育大3)	14.74
⑤山田彩夏 (順天堂大4)	14.51
⑥武田光里 (大阪体育大3)	14.51
⑦田中杏実 (九州共立大4)	14.28
⑧今西あかり (九州共立大4)	13.98

●円盤投・27日

②阪本海月華 (日本体育大3)	46.89
③西山藍那 (筑波大M2)	45.48
④友利晟弓 (九州共立大3)	45.28
⑤川村羽海 (筑波大1)	44.78
⑥外間結希乃 (国士舘大3)	44.52
⑦桑島弥々 (九州共立大3)	44.26
⑧矢野結衣 (九州共立大1)	43.93

【会議報告】

第70回理事会

1. 開催日時

令和7年1月16日(木)17時00分から

2. 開催場所

オンライン会議システム (Zoom) による開催

3. 理事総数および定足数

現在22名、定足数12名

4. 出席理事数：21名

(出席理事) 秋元 恵美、有吉 正博、岡崎 朋美、
小倉 幸雄、片平 誠人、蒲原 一之、苅部 俊二、
北井 敏雄、工藤 洋治、黒須 雅弘、障子 恵、
関根 春幸、大後 栄治、鶴崎 健一、永井 純、
長澤 光雄、日隈 広至、広川龍太郎、松本 正之、
安井 年文、山下 誠

(出席監事) 細萱 智大

(欠席理事) 福島 洋樹

(欠席監事) 山本 俊樹

5. 議題

【協議事項】

第1号議案：2025 FISU WUG 日本代表選手選考要
項について

第2号議案：不服申し立て委員会委員について

第3号議案：2025 日本学生陸上競技個人選手権大
会について

【報告事項】

① 2024 全日本大学女子選抜駅伝競走について

6. 議事の経過およびその結果

(1) 定足数の確認

(2) 議長および議事録署名人の選出

(3) 議案の審議および議決結果等

【協議事項】

第1号議案：2025 FISU WUG 日本代表選手選考要
項について

永井純専務理事および山下誠強化委員長より資料
に基づいて提案があった。

昨年12月14日の理事会で承認されたものだが、
日本陸連強化委員会からの指摘があったことから再
度の審議となった。

山下強化委員長、永井専務理事からの説明、工藤
理事より補足説明。

今回、日本陸連の問題意識は大きく2つあり、1

つは一義的に明確に決まるようにしてほしいという
こと。2点目がリレーを派遣することで個人の権利
を侵害しないようにしてほしい。陸連からの別案と
して、対象者をScoring Tableのスコア順に並べス
コアの高い選手から機械的に決めるという案や、あ
るいはワールドランキングが高い順に並べて上の選
手を機械的に決めるという案である。

しかし、このやり方では、WUGにおけるメダル
獲得の可能性に直結しない場合があり、せめぎあい
の結果、冒頭部分はお互いの意見を尊重し、両方併
記する形をとった。例えば女子の長距離や男女ハー
フなどはScoring Tableやランキングと連動しない
ことから②は維持になった。

よって、男女ハーフや男子競歩は3位以内に入っ
たらその時点で内定とする点では学連の立場を守り
切った。一方で、③2) 日本陸連としては、単純にス
コアだけで決めてほしいという案だったが、そうす
ると必ずしも良い結果とはならないので、アナログ
的な要素を残したうえで、意見が一致しなかった場
合に最後にScoring Tableを使う。1人でも反対者が
いた場合にはScoring Tableを使う。意見をしっかり
と反映させるために、日本陸連から必ず1人は来
なければならないなど。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理
事全員一致で可決した。

第2号議案：不服申し立て委員会委員について

永井純専務理事より説明。荒木田さんがご逝去さ
れたことに伴い、森田 侑実重さんが入ることを承
認していただきたい。名古屋の方で弁護士をやられ
ている方である。名古屋大学法学部、名古屋大学法
科大学院をご卒業。スポーツに関わる活動として、
日本スポーツ法学会所属、小学校から大学院に至る
まで陸上競技部に所属していた。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理
事全員一致で可決した。

第3号議案：2025 日本学生陸上競技個人選手権大
会について

永井純専務理事より説明。澤木顧問から個人選手
権を活性化させるために報奨金を出したらどうかと
いう提案があった。個人選手権では男子18種目、女
子18種目行われる。本年度はWUGの選考会も兼ね
るので、男女の10000m、男女の混成種目はWUG
の選考種目として実施するのでこの4種目は報奨金
の対象としない。報奨金制度には澤木顧問に大変ご
尽力をいただいているが、継続することを重視し、

引き続きマーケティング活動に努めたい。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

【報告事項】

(2024全日本大学女子選抜駅伝競走について)

永井専務理事より、12月30日に全日本大学女子選抜駅伝競走と富士山女子駅伝が終了した。令和6年度の年内最後の大会が熱中症などもなく終わったが、競技運営のところで危ないと思ったところがあるので、静岡陸協ともお話しして、関根先生がい

つも指摘しているところではあるが、もう一回確認していききたい。加えて、JADA(日本アンチ・ドーピング機構)、日本オリンピック委員会、日本陸連からアンチドーピング教育励行の通達を受けたことにより、開会式後に、参加チーム全員に対し、本連合の医事委員会委員長の蒲原先生に講義をいただいた。

＊

以上をもって議案の審議等を終了したので、18時11分、議長は閉会を宣し、解散した。

資料

FISU ワールドユニバーシティゲームズ (2025/ライン・ルール)

2025年7月16日～7月27日

日本学生陸上競技連合日本代表選手選考について

FISU ワールドユニバーシティゲームズ競技大会(以下、本大会)の選手団編成方針は、日本オリンピック委員会(JOC)が定めた派遣枠を基に、将来のオリンピック等の国際競技会での活躍が期待されるとともに、本大会でメダル獲得または入賞が期待される競技者を選考し編成する。

◆大会日程(開催地)

2025年7月16日～7月27日(Rhine-Ruhr、GER) <陸上競技7月21日～7月27日>

I. 選考競技会

- | | | |
|------------|---------------------------------|------------|
| 1. ハーフマラソン | 第28回日本学生ハーフマラソン選手権大会(香川県・丸亀市) | 2025年2月2日 |
| | 第28回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会(島根県・松江市) | 2025年3月16日 |
| 2. 競歩 | 第19回日本学生20km競歩選手権大会(石川県・能美市) | 2025年3月16日 |
- なお、ハーフマラソン・競歩については、出場者のうち2025年度日本学連普通会員登録を予定されている者が選考対象となる。
3. 上記以外の種目 2025日本学生陸上競技個人選手権大会(神奈川県平塚市)2025年4月25日～27日(男女10000m・混成競技の選考競技会を、同大会内において実施する。)

II. 選考方法基本条件

日本国籍を有しFISU(世界大学スポーツ連盟)が定める基本条件等を満たし、かつ、2025年度日本学連普通会員登録を予定されている競技者を選考対象とする(日本学連・普通会員の資格に関する規程参照)。ただし、日本国籍を有し海外の大学に留学をしている場合は日本学連普通会員登録がなくても選考対象とする。

なお、選手の参加年齢条件は、FISUが定める18歳～25歳(2025年末時点。2000年1月1日から2007年12月31日の間に生まれた者)である。

選考基準

- 以下(1)(2)の条件をいずれも満たした者を選考対象者とする。

なお、選考対象者の中から下記2に従いさらに選考をするので、**以下(1)(2)の条件を満たした場合でも代表選手となるとは限らないことに留意されたい。**下記2参照。

(1)派遣標準記録有効期間内に、派遣標準記録(表1)を突破すること。
派遣標準記録：過去3大会の6位相当平均(2024日本学生ランキング10位相当がこれを上回る場合は当該記録)を目安に設定。ただし、中長距離種目については、入賞者のPBも参照して設定。

(2)前記Iの各選考競技会において8位以上に入賞(※)すること。
(※)長距離種目および競歩については、前記基本条件(日本国籍の保有等)を満たす者の中で上位8名以上に入

た者とする。

ただし、以下①②③のいずれかに該当する場合は、(2)の条件を要しないものとする。

【例外：上記(2)の条件を要しない場合】

①世界選手権のターゲットナンバー内の選手	個人選手権で選考をする競技については、個人選手権のエントリー締切日の1週間前(3月23日(日))時点で東京世界選手権のターゲットナンバー(1か国3名。roadtoTokyoではなく、通常のワールドランキング。)に入っており、2025年3月末日までに本大会に出場する意思を日本学連に伝えた場合。
②日本陸連から海外派遣される選手	既に(1)の条件を満たしている者が、日本陸連の派遣大会への日本代表選手としての出場又はその出場準備のため各選考競技会に出場できない場合で、各選考競技会のエントリー締切日の1週間前までに日本学連に指定の書式でその旨を届け出て、日本学連の承認を得た場合。

注) 男女ハーフマラソンおよび男子競歩については、各選考競技会で3位以内の者を代表選手に内定した上で、他種目を含めた全体選考の際に、チーム戦略の観点から追加選考の有無を決定する。

注) 同一種目において、上記1(2)本文に基づく選考対象者と、同ただし書き②に基づく選考対象者とがいる場合は、上記1(1)を満たした資格記録のResultScoreの優劣で優先順位を決定する。

2. JOCから陸上競技に割り当てられた全体の派遣枠数に達するまで、全種目の選考対象者の中から、順次、本大会において、より上位を獲得することが期待される競技者を代表選手として選考する。

具体的には、個人選手権終了後に実施される選考会議において、以下の順序で検討し、決定する。

①前記1(2)の例外①(個人選手権で選考をする競技について、個人選手権のエントリー締切日の1週間前(3月23日(日))時点で東京世界選手権のターゲットナンバー(1か国3名)に入っており、同月末日までに本大会に出場する意思を日本学連に伝えた者)は、選考競技会への出場の有無や、出場した場合の順位とは関係なく、最優先で代表選手とする。

②次に、前記のとおり、男女ハーフマラソンおよび男子競歩は、各選考競技会で3位以内の者を代表選手に内定しているので、選考会議時点でも本人に出場意思があり怪我等がない限り、代表選手とする。なお、男女ハーフマラソンおよび男子競歩の追加選考の有無は、チーム戦略の観点も踏まえて、下記③において他種目の選考対象者と比較の上で決定する。

③上記①②の残枠に対して、全種目の選考対象者の中から、以下の方針に従って選考する。

- 1) 同一種目の選手間の優先順位は、上記①の対象者を除き、各選考競技会において順位が上位の者を優先する。
- 2) 異なる種目の選手間の優先順位は、i) 派遣標準記録又は過去大会のメダルもしくは入賞相当記録の突破の程度、ii) 各選考競技会での結果、iii) 国際的な基準※等を総合的に検討の上で、決定する。上記i～iiiの総合的な観点での優劣について選考委員間において意見が一致しない場合は、資格記録についてのScoringTablesに基づくResultScoreが高い競技者を優先する。

「国際的な基準※」: World Athleticsが公表しているScoringTablesに基づくResultScore等

「選考委員」: 本連盟の理事会において選出・決定する。ただし、日本陸連が推薦する者1名以上を必ず加えるものとする。

3) リレー種目の派遣については、当該リレー種目の対象者の全員(リザーブメンバーを含む。)が、

- i) 個人種目で前記選考基準1(1)(2)の条件を満たしていること、及び、
- ii) 他種目で選考競技会2位(10000mは3位)以上に入り、かつ前記選考基準1(1)(2)を満たしているにもかかわらず選出されなかったすべての選手よりも、個人種目の資格記録のResultScoreが高いことを条件とする。

ただし、上記2)で個人として選出された選手だけでリレーメンバーを組むことができる場合は、上記i・iiの検討を要しないものとする。

なお、各種目のエントリー人数の上限はFISUの規定により、男女ハーフマラソンおよび男女競歩は最大5

名、男女10000mは最大3名、他の種目は1種目2名以内と定められている。
ある種目の代表選手となった競技者が、別種目について上記1の条件を満たしていないものの当該別種目でメダル獲得または入賞が期待されるときには、代表選手となった種目に加えて、または代表選手となった種目には出場せずに、当該別種目にエントリーする場合がある。

3. 代表選手は、日本学連の理事会の承認を経て、JOC 理事会にて正式決定する。

III. 派遣標準記録有効期間

	派遣標準記録有効期間（男子・女子共通）
ハーフマラソン（男子）	2024年1月1日～2025年2月2日
ハーフマラソン（女子）	2024年1月1日～2025年3月16日
競歩	2024年1月1日～2025年3月16日
一般種目（上記以外）	2024年1月1日～2025年4月27日（※）

（※）ただし、FISUの設定した資格条件有効期間内（2024年1月1日～）の標準記録（別表①）がない選手は、本大会にエントリーすることができないため、選考対象外となる。

IV. その他

1. 代表選手として決定した後でも本大会までに故障などのために競技力を十分に発揮できないと強化委員会が判断した場合には代表を取り消す。その場合に、エントリー締切り前であるときは、別の競技者（同一種目とは限らない。）を代表選手として追加選考することがある。
2. 天災、その他の理由で選考競技会が中止になった場合は、代替の選考競技会を設定する場合がある。また、代替の選考競技会の設定が困難な場合は、理事会の決定により、他の選考方法によって選考する場合がある。
3. 今後、FISUによってワールドユニバーシティゲームズの開催条件や参加資格等に関する変更があった場合は、選考方法を変更する場合がある。
4. 天災、その他の理由で本大会が延期となった場合は、内定を取り消す場合がある。

【会議報告】

第71回理事会

1. 開催された日時

令和7年3月8日(土)12時45分から15時03分まで

2. 開催された方法

TKP新宿カンファレンスセンター6D

3. 理事総数及び定足数

現在数22名、定足数12名

4. 出席理事数 18名

(出席理事) 秋元 恵美、有吉 正博、小倉 幸雄、
片平 誠人、蒲原 一之、北井 敏雄、工藤 洋治、
黒須 雅弘、障子 恵、関根 春幸、大後 栄治、
鶴崎 健一、永井 純、長澤 光雄、日隈 広至、
福島 洋樹、安井 年文、山下 誠

(出席監事) 山本 俊樹

(欠席理事) 岡崎 朋美、苅部 俊二、広川龍太郎、
松本 正之

(欠席監事) 細萱 智大

(オブザーバー) 岡田晃、佐治由佳、羽田雄一、大朝太、
増田憲二、船原勝英

5. 議題

【協議事項】

第1号議案：令和7年度事業計画(案)承認の件

第2号議案：令和7年度事業予算(案)承認の件

第3号議案：特定費用準備資金計画・特定資産につ
いて

第4号議案：令和7年度主催競技会要項(案)承認
の件

第5号議案：令和6年度栄章受章候補者の承認の件

第6号議案：令和7年度正会員入会承認の件

第7号議案：第17回定時社員総会開催承認の件

第8号議案：WUG基幹役員について

第9号議案：WUG日本代表選手選考委員について
／競歩、女子ハーフマラソン戦略検討
委員について

第10号議案：実業団・学生対抗陸上／代表選手選考
について

第11号議案：強化委員会・委員について

第12号議案：その他

【報告事項】

①前回理事会以降の会務の報告

②WUG男子ハーフマラソン内定者について

③令和6年に誕生した日本学生記録の報告

④WUG派遣枠について

⑤2026年度主要主催競技会日程について

⑥2025年度日本学生陸上競技連合アンチ・ドーピン
グ講習会

⑦その他

6. 議事の経過およびその結果

(1) 定足数の確認

(2) 議長および議事録署名人の選出

(3) 議案の審議および議決結果等

【協議事項】

第1号議案：令和7年度事業計画(案)承認の件

永井純専務理事より資料に基づき提案があった。

公1、競技会に関して、2025年度はWUGが開催さ
れることもあり、2025日本学生個人選手権を代表選
手選考会と位置づけ、4月末に実施する。世界陸上が
9月に東京で実施されることを鑑みて、94日本ICは
6月上旬に3.5日間の日程で岡山開催の予定。打ち合
わせを重ねる中で芝に向かって投げる砲丸投では、芝
の修繕が問題点として挙げたが費用を負担すること
で解決。実学対抗に関しては、8月9日開催。

公2、育成に関して、①指導者育成(競技会派遣等)
に関して、7月にドイツで行われるWUGに派遣す
る。世界大学クロスカントリーについては、開催時期
が未定ではあるが、派遣予定。全国大学対校男女混合
駅伝は、今大会より後援から共催になった。

公2、育成、②競技者・指導者・審判員育成事業に
関して、例年の計画に加え、日本ICに特別協賛をい
ただいているSMBCとの協働事業として、普及指導者
育成事業を計画。

公3の調査研究では、陸上競技研究の発刊は3回
を予定。

法人管理部門に関しては、4月と6月(岡山)に理
事会を予定している。定時社員総会についても6月開
催(オンライン)を予定している。毎年社員総会の後
に行っていた理事会は9月開催(オンライン)を検討
している。それ以外の部分は従来通りの計画。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事
全員一致で可決した。

第2号議案：令和7年度事業予算(案)承認の件

大西清司事務局長：資料に基づき令和7年度収支予
算(資金収支ベース)および正味財産増減予算(案)
について提案。

収支予算書(資金収支ベース)は令和7年度の予算
全体の概要である。

投資活動収支の部において、

I. 事業活動収支の部について、公益法人として作成が義務付けられている損益ベースの収支予算(正味財産増減予算書)である。

1. 事業活動収入①～⑦＝正味財産増減予算書の経常収益の大科目。1億4300万円
2. 事業活動支出①②＝正味財産増減予算書の経常費用の事業費と管理費。1億4300万円

II. 投資活動収支の部について、貸借対照表の資産の部を構成する、特定資産に関する部分である。

正味財産増減予算書には反映されない数字となる。

3号議案の特定費用準備資金計画で詳しく説明するが特定の事業に限定した利用とし、取崩や積立を計画的に実施する予算である。

①投資活動収入(940万円)

- ・WUG 500万円取崩収入 ・世界大学クロスカントリー派遣200万円取崩収入(令和7年度より新しく設定)
- ・競技者育成奨励事業積立資産200万円取崩収入
- ・普及指導者育成事業積立資産40万円取崩収入

②投資活動支出(積み立て)

- ・創立100周年事業(2028年度事業)50万円積立
- ・競技者育成奨励事業積立600万円
- ・普及指導者育成事業積立100万円

正味財産増減予算書について(損益ベースの収支予算書である)

- ・受取会費：令和7年度予算200000名＝36,000,000円を計上(前年度予算と同額)
- ・受取協賛金：対前年比＋1400万円 SMBC(前年度の予算には入っていなかったため、対前年比で大幅増となっている)。明治、ヤクルト等の協賛もが寄与。
- ・受取放映権料：昨年と同額。
- ・受取参加料：対前年比△100,000円
- ・受取広告料：日本学生個人、日本IC等 前年実績を参考に設定 対前年比△170万円
- ・入場料収入等：日本インカレ入場料収入を1400万円計上。2024川崎大会実績よりも100万円程度減としたが対予算比では同じ予算。
- ・受取負担金：主に駅伝大会で受け取る必要経費を計上、前年度とほぼ同じ内容
- ・受取補助金：JSC助成金については個人選手権(基金助成300万円)、陸上競技研究(toto助成230万円)その他寄付金の計上(公2)、日本IC-岡山県コンベンションビューロー等で990万円計上。

【事業費】

- ・給与手当人件費関連：令和6年度は職員の1名新規採用(8月～)、育休復帰、時短勤務などにより、多めに計上。令和7年度はより精緻に計上した結果、予算としては対前年比では減。
- ・会議費：今年度はWUGおよびWUCへの派遣、インカレ地方開催、学生幹事(食事代)の増員を考慮し増額。対前年比＋855,000円
- ・旅費交通費：
 - ・日本IC地方開催による増＋200万円
 - ・WUG派遣、世界大学クロカン派遣他、対前年比＋824万円と大きな経費を計上とした。
 - ・通信運搬：WUGにおけるWi-Fiのレンタル費用など。対前年比＋70万円
 - ・印刷製本費：主に日本IC、個人選手権のプログラム経費(原材料費高騰見込む)。対前年比約45万円増。
 - ・消耗品：WUG派遣にともなうもの。物品値上げ等も加味した。対前年比＋74万円
 - ・賃借料：競技場使用料等が多くを占める経費。対前年比＋43万円川崎の競技場は市営のため、比較的低価格で予算化していたこと、4日間での利用を前提にしていたことなど、対前年比では5日間の借用になるなど少しのプラスとした。
- ・諸謝金：WUGおよびWUC派遣にともなうものである。対前年比約＋100万円
- ・表彰費：競技会における成績優秀者への報奨金を表彰費として計上。対前年比＋270万円
- ・委託費：2024年度実績に基づいて算出/SISの値上がり等反映。対前年比＋82万円
- ・支払負担金：前年と同様とした。日本IC、駅伝における地区学連への協力金、陸協への協力金、実学対抗陸上の学連からの負担金など。

管理費について

- ・職員給与等人件費は令和6年度事務職員の動きがあったため、少し多めに計上、事業費同様精査した結果減額となっている。
- ・事務所賃貸料などの固定費は対前年比で数万円のプラスにて予算化、固定費関係を配賦率に基づき事業費に配賦した結果、管理費は14,059,720円を計上。対前年比＋1,184,000円
- ・経常費合計143,000,000円に対し、管理費の占める比率は約9.8%とし、前年とほぼ同様の比率となっている。

各公益目的事業別の会計収支について

公1 ▲930万円 公2 ▲1220万円

公3 ▲235万円 計 ▲438万円

※法人会計：＋438万円

公益目的事業においては赤字が望ましいとされていることから、その予算編成となっている。なお、内閣府が提出を求める資金調達計画（＝借入金の計画）および設備投資においては計画がない旨説明があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第3号議案：特定費用準備資金計画および特定資産について

大西清司事務局長より資料に基づき特定費用準備資金計画・特定資産について提案。

- ・令和7年度予算に向けて

（取崩）：WUG派遣事業5000千円、世界大学クロカン派遣事業2000千円、競技者育成奨励事業へ2000千円、普及指導者育成事業40千円（合計9400千円）

（繰入）：100周年事業への積立500千円、競技者育成奨励事業へ6000千円、普及指導者育成事業1000千円（合計7500千円）

- ・令和6年度の決算に向けて：WUG積立資産へ3000千円を繰入。世界大学クロスカントリー派遣積立資産へ2000千円繰入。100周年事業積立資産へ500千円繰入。海外ロードレース遠征積立資産より2000千円取崩

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第4号議案：令和7年度主催競技会要項(案)承認の件

山下誠常務理事より資料に基づき令和7年度主催競技会要項(案)について提案。

- ・実学対抗：実施種目について、投てき種目は男女隔年で変更となっているが、女子円盤投はGP種目として開催する。
- ・出雲全日本大学選抜駅伝競走：7. 参加資格(2)について、中国四国学連選抜の参加について明記した。今大会では、中国四国地区からの参加枠が1大学ということもあり選抜チームの参加を認めることとなった。
- ・日本学生ハーフマラソン選手権大会：6. 参加資格について、次回大会から新たに標準記録を設けた。

前回大会時に標準記録を設けずに実施した際、香川丸亀国際ハーフマラソンのA資格より遅いタイムの選手が学生ハーフに出場できてしまったという実例があった。

そのため、丸亀ハーフA資格と同様の標準記録を導入。その他の部分にWUGのない年に実施しているナイメーヘン（長距離選手育成目的のオランダ遠征）の選考に関することを追記した。

（関根春幸常務理事）

実学の要項に関して、男女混合種目として実施予定の男女混合4×400mRは現在の要項上では、WRk対象種目ではないという表記があるが、WAからのルール修改正があったためWRk対象種目として申請する運びである。内容としては、走順を男→女→男→女とすることで世界記録の認定要件とするというものである。また、世界が認める世界記録はWRk申請大会で記録されたもののみとし、個人種目については3人以上、リレーに関しては2チーム以上が出場している場合のみ世界記録とすることとなっている。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第5号議案：令和6年度栄章受章候補者の承認の件

永井純専務理事より別紙に基づき令和6年度栄章受章候補者について提案があった。

北海道学連、関東学連、東海学連、北信越学連、関西学連、中国四国学連、九州学連、日本学連より合計13名を功労章に推薦したい。

また、今後の功労章の推薦として、死亡受章についても考慮できることとした。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第6号議案：令和7年度正会員入会承認の件

永井純専務理事より資料に基づき令和7年度正会員入会承認の件について提案があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第7号議案：第17回定時社員総会開催承認の件

永井純専務理事より資料に基づき定時社員総会開催承認の件について提案があった。

社員総会については、令和7年6月21日(土)14時～オンライン形式で実施予定。

定時社員総会後に実施していた理事会は、6月5日に理事会を予定しているので9月下旬にオンライン等で予定したい。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事

全員一致で可決した。

第8号議案：WUG基幹役員について

永井純専務理事より資料に基づきWUG基幹役員について提案があった。

- ・チームリーダー：安井年文(理事)
- ・監督：米田勝朗(競技委員会／中・長距離部)
- ・総務：黒須雅弘(理事)
- ・副総務：木越清信(指導者会議運営委員会委員長)
- ・帯同医師：金子晴香さん(医事委員会委員)

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第9号議案：WUG日本代表選手選考委員について

競歩／女子ハーフマラソン戦略検討委員について

永井純専務理事より資料に基づきWUG日本代表選手選考委員について競歩／女子ハーフマラソン戦略検討委員について提案があった。

前回大会の選考委員に加え、女子の指導者として新たに信岡沙希重さん(強化委員会／短距離・ハードル部)、十倉みゆきさん(強化委員会／中・長距離部)

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第10号議案：実業団・学生対抗陸上／代表選手選考について

山下誠常務理事より資料に基づき実業団・学生対抗陸上／代表選手選考について提案があった。

例年は個人選手権で選手選考を行っているが、2025年度は個人選手権が4月、日本インカレが6月に開催されるため、開催時期を考慮して日本インカレを第1優先として選手選考を行いたい。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第11号議案：強化委員会・委員について

山下誠常務理事より資料に基づき強化委員会・委員について提案があった。

強化委員会の追加メンバーとして吉岡利貢さん(担当：中距離)、右代啓祐さん(担当：混成競技)を推薦。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第12号議案：その他

永井純専務理事より日本陸連理事推薦について提案があった。

現在も日本陸連理事としてご活躍いただいている障子恵さん(理事／総務委員会委員長)を推薦。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

【報告事項】

①前回理事会以降の会務の報告

永井純専務理事より前回理事会以降の職務執行について報告があった。

関根春幸常務理事より以下の通り競技委員会の会務報告が行われた。

競技委員会では、各種競技会の反省並びに準備を進めている。また、ルールの修改正についての情報を各地区学連に正しく発信していく手立てを検討していく。

障子恵理事より以下の通り総務委員会の会務報告が行われた。

総務委員会では、個人選手権に加え例年より早期に行われる日本インカレの準備を進めている。

山下誠常務理事より以下の通り強化委員会の会務報告が行われた。

強化委員会では、個人選手権並びに日本インカレの競技日程策定に関する作業を競技委員会と共に実施した。また、駅伝については、実業団、高校駅伝で採用している外国人留学生の区間指定について議論となった。今後の検討課題としたい。

②WUG男子ハーフマラソン内定者について

永井純専務理事より資料に基づきWUG男子ハーフマラソン内定者について報告があった。

2月2日(日)に香川丸亀国際ハーフマラソンと併催で開催された、第28回日本学生ハーフマラソン選手権大会にて以下の4名(1名は補員)がWUG日本代表の内定者となった。

工藤慎作(早稲田大学2年)、馬場賢人(立教大学3年)、上原琉翔(國學院大学3年)

補員：帰山侑大(駒澤大学3年)

③令和6年に誕生した日本学生記録の報告

④WUG派遣枠について

永井純専務理事よりWUG派遣枠について報告があった。

前回大会では男子が24名、女子が17名、PTOが13名、ATOが2名であったが、今大会では男子28名、女子17名となり選手は6名の増、スタッフは2名増の17名となり大幅な増枠となった。

⑤2026年度主要主催競技会日程について

永井純専務理事より資料に基づき2026年度主要主催競技会日程について報告があった。

2026年は9月下旬に名古屋においてアジア大会が開催される。2026年の日本インカレに関しては、9月1週目、2週目、首都圏開催が検討されている。暑

さ等の問題を鑑みて、男女 10000 m 並びに 10000 m W の 2 種目に関しては、分離開催も視野に入れ、実施方法について強化委員会において今後検討することとした。

⑥ 2025 年度日本学生陸上競技連合アンチ・ドーピング講習会

永井純専務理事より資料に基づき 2025 年度日本学生陸上競技連合アンチ・ドーピング講習会について報告があった。

蒲原一之理事より補足説明。

ここ数年、日本国内において、ドーピング違反の事

例として、陸上競技のアスリートが最も多いということで JADA から指導を受けている。アンチ・ドーピング講習会に関しては 1 年前にも実施したが、参加人数が極端に少なかった。その事例を受けて、広報を強化し、大会前の 4 月に本連合医事委員会の方の講師をお願いして実施予定である。開催期日に日程が合わなかった方々のために、動画の配信を何度か行う予定である。

資料

公益社団法人日本学生陸上競技連合 2025 年度（令和 7 年度）事業計画（案）

（事業目的）

公益社団法人日本学生陸上競技連合（以下、「この法人」という。）は、日本の学生陸上競技界を統括し、かつ代表する学生の競技団体として、学生陸上競技の普及・振興を図り、学生の心身の健全な発達と明るく豊かな学生生活の形成に寄与することを目的とする法人である。

（基本方針）

以上を目的とし、次の 3 点を軸に事業計画を策定した。

- （1）学生陸上競技に関する競技会を円滑に開催する。
- （2）学生陸上競技界の競技力向上を図るため、競技者の国際競技会への派遣及び外国の学生競技者の国内競技会への招致を積極的に推進する。
- （3）陸上競技の普及・振興を図るため、関係団体と協力し競技者が快適に競技に取り組むことが出来る環境の整備を推進する。

■公益目的事業

公 1 - 競技会

No.	競技会	期日	場所	種目数	参加校・参加数	備考
1	2025 日本学生陸上競技個人選手権大会 兼 WUG 日本代表選手選考競技会	2025 年 4 月 25 日（金） ～ 27 日（日）	レモンガス スタジアム平塚	男子 18 女子 18	100 校・600 名 100 校・600 名	※スポーツ振興基金助成金を申請 ※報奨金授与予定
2	天皇賜盃第 94 回 日本学生陸上競技 対校選手権大会	2025 年 6 月 5 日（木） ～ 8 日（日）	JFE 晴れの国 スタジアム／ 岡山市	男子 22 女子 22	135 校／1100 名 120 校／900 名	【表彰】 天皇賜盃 <男子総合優勝> 秩父宮妃杯 <女子総合優勝> ※スポーツ安全協会スポーツ普及奨励助成 金申請予定
3	秩父宮賜杯 第 65 回実業団・学 生対抗陸上競技大会 オールスターナイト陸上	2025 年 8 月 9 日（土）	レモンガス スタジアム平塚	男子 9 女子 9 （予定）	各種目 3 名 + 3 名による 対抗戦	【後援】スポーツ庁（予定） 秩父宮賜杯 <総合優勝> 内閣総理大臣杯（予定）<総合優勝> 文部科学大臣杯（予定）<男子団体優勝> 厚生労働大臣賞（予定）<女子団体優勝> →申請予定 ※グランプリシリーズに参入予定
4	第 37 回 出雲全日本大学選抜駅伝競走	2025 年 10 月 13 日 （月／祝）	出雲市 45.1km 全 6 区間		国内…23 チーム 海外…1 チーム	【後援】スポーツ庁（予定） 【表彰】 内閣総理大臣杯（予定）<優勝校> 文部科学大臣賞（予定）<優勝校> →申請予定
5	第 43 回 全日本大学女子駅伝 対校選手権大会	2025 年 10 月 26 日（日）	仙台市 38.0km 全 6 区間		25 校 + 1 チーム （東北学連選抜）	【後援】スポーツ庁（予定） 【表彰】文部科学大臣杯（予定）<優勝チーム> →申請予定
6	秩父宮賜杯 第 57 回全日本大学駅伝 対校選手権大会	2025 年 11 月 2 日 （日／祝）	名古屋市 ～伊勢市 106.8km 全 8 区間		25 校 + 2 チーム （全日本学連選抜 チーム／東海学 連選抜チーム）	【後援】スポーツ庁（予定） 【表彰】文部科学大臣杯（予定）<優勝チーム> →申請予定
7	2025 全日本大学女子選抜駅伝競走	2025 年 12 月 30 日（火）	富士宮市 ～富士市 43.8km 全 7 区間		22 校 + 2 チーム （全日本大学選抜 チーム／静岡県 学生選抜チーム）	【後援】スポーツ庁（予定） 【表彰】文部科学大臣杯（予定）<優勝チーム> →申請予定
8	第 29 回 日本学生ハーフマラソン 選手権大会	2026 年 2 月 1 日（日）	丸亀市		男子 300 名	香川丸亀国際ハーフマラソン大会と併催

9	第20回 日本学生20km競歩選手権大会	2026年 3月15日(日)	能美市		男子100名 女子30名	全日本競歩能美と併催
10	第29回 日本学生女子ハーフマラソン 選手権大会	2026年 3月15日(日)	松江市		女子100名	まつえレデースハーフマラソンと共催
※	2025年日本学生記録集の発行 (記録年鑑)	2026年 3月				1000部発行学生50傑、主催大会、関連競技会結果を掲載した記録集

公2-育成 ①競技者育成(競技会派遣等)事業

No.	事業	期日	場所	備考
1	FISU ワールドユニバーシティ ゲームズ	7月21(水)～ 27日(月)	Rhine-Ruhr (GER)	男子/28名 女子/19名(計47=確定) 役員17名(うちATO-2名) ※事前合宿の計画、支援スタッフ派遣(検討)
2	2025チャイニーズ台北 国際陸上競技大会	未定	台北	男女各3～4名 役員…1～2名 ※日本陸連宛 主催者による招聘があった場合に実施
3	香港インターシティ 2025	未定	香港	男女各3～4名 役員…1～2名 ※日本陸連宛 主催者による招聘があった場合に実施
4	2026東京マラソン 準エリートの部への選手推薦	2026年3月	東京	特に優秀な競技者はエリートへ推薦
5	2026FISU 世界大学 クロスカントリー(WUC)	2026年	未定	2026年4月以降開催の場合は2026年度事業

公2-育成 ②競技者・指導者・審判員育成事業

No.	事業	期日	場所	備考
1	競技力向上のための巡回指導	未定	各地	地区学生陸上競技連盟の要請により講師派遣
2	競技者育成負担事業	各競技会 開催日	各地	・北日本インカレ、西日本インカレに対し補助金(共催事業) ・日本学生個人選手権大会3位入賞者への報奨金授与 ・ハーフマラソン等ロードレース3位入賞者への報奨金授与(検討)
3	普及指導者育成事業	未定	各地	SMBCとの協働事業として、普及のための指導者育成事業を推進
4	ドーピングコントロールテスト	4回(予定)	各地	日本アンチ・ドーピング機構及び日本陸上競技連盟との連携により 競技会検査を実施
5	アンチドーピング アウトリーチプログラム	2回(予定)	各地	日本アンチ・ドーピング機構及び日本陸上競技連盟との連携により 実施(個人選手権、日本インカレ等)
6	新規B級審判員資格認定	各地区講習会 を実施	各地	約1400名(男子1000名、女子400名)
7	学生審判員研修会	2回～3回	各地	地区学生陸上競技連盟の要請により講師派遣
8	栄章贈与 功労章・勲功章の 表彰 日本新記録・ 日本学生新記録表彰	6月8日(日) 3月7日(土)	岡山 東京	日本インカレ時に実施 12月31日時点の記録にて決定。栄章贈与式として実施
9	第6回全国大学対校 男女混合駅伝競走大会	2026年2月	大阪	主催：関西学生陸上競技連盟 関西テレビ放送 産経新聞社 →共催として参画
10	第109回クロカン日本選手権	2026年2月	福岡	共催事業として認定し、学生クロスカントリーの普及強化を推進
11	第71回指導者会議	2026年 3月7日	東京	テーマについては後日決定/オンライン併催予定

公3-調査・研究

No.	事業	期日	場所	備考
1	陸上競技の研究調査	年3回		「陸上競技研究」誌の発行、toto助成申請予定 6月,10月,2月
2	陸上競技学会23回大会	年1回		主催：日本陸上競技学会→共催として参画

■法人管理部門

組織力管理

No.	事業等	期日	場所	備考
1	第72回理事会 第73回理事会 第74回理事会 第75回理事会 第76回理事会	4月28日(月) 6月05日(土) 9月下旬 12月13日(土) 3月7日(土)	オンライン 岡山 オンライン 東京 東京	※理事会の回数は暫定 ※臨時理事会・web会議システムによる開催の場合もある
2	第17回定時社員総会	6月21日(土)	オンライン	臨時社員総会・web会議システムによる開催の場合もある
3	2025年度学生役員会議 第51回学生幹部役員研修会	12月13日(土) 3月6日～7日	東京	参加対象：地区学連幹部学生役員
4	会報の刊行(広報誌)	年3回		各回1000部発行(正会員、名誉会員、役員(地区学連加盟校に配布) 内容：事業の報告、会議議事録等
5	ホームページの運営	随時		日本学連公式ホームページ・携帯サイトの運営
6	学連情報の編集・掲載	毎月		機関誌「月刊陸上競技」に掲載
7	公認競技会開催申請及び 記録公認申請	2025年度		日本学連傘下の団体の公認競技会開催受付/日本陸連申請 日本学連傘下の団体の記録公認受付/日本陸連申請
8	会員の入会受付	2025年度		正会員…135名 普通会員(学生)/20,000名を想定(男子15,000名、女子5,000名) 名誉会員…40名 賛助会員…20名

令和7年4月1日～令和8年3月31日まで

	公益目的事業会計（内訳表）				公益目的事業 会計合計	法人会計	令和7年度 予算合計（A）	令和6年度 予算（C）	増減 （A－C）
	公1	公2	公3	共通					
I 一般正味財産増減の部									
1. 経常増減の部									
（1）経常収益									
基本財産運用益	0	0	0	2,000	2,000	2,000	4,000	4,000	0
基本財産利息	0	0	0	2,000	2,000	2,000	4,000	4,000	0
特定資産運用益	0	0	0	3,000	3,000	3,000	6,000	6,000	0
特定資産利息	0	0	0	3,000	3,000	3,000	6,000	6,000	0
受取会費	0	0	700,000	19,437,500	20,137,500	18,437,500	38,575,000	37,575,000	1,000,000
正会員受取会費				337,500	337,500	337,500	675,000	675,000	0
普通会員受取会費				18,000,000	18,000,000	18,000,000	36,000,000	36,000,000	0
賛助会員受取会費				1,100,000	1,100,000	100,000	1,200,000	200,000	1,000,000
陸上競技研究受取会費			700,000		700,000	0	700,000	700,000	0
事業収益	79,220,000	5,428,000	0	0	84,648,000	0	84,648,000	72,448,000	12,200,000
受取協賛金	33,350,000	5,428,000	0		38,778,000	0	38,778,000	24,778,000	14,000,000
受取放映料	17,600,000				17,600,000	0	17,600,000	17,600,000	0
受取参加料	9,100,000				9,100,000	0	9,100,000	9,200,000	△ 100,000
受取広告料	5,000,000				5,000,000	0	5,000,000	6,700,000	△ 1,700,000
入場料等売上	14,170,000				14,170,000	0	14,170,000	14,170,000	0
受取負担金	9,756,000	0	0	0	9,756,000	0	9,756,000	10,456,000	△ 700,000
受取負担金	9,756,000				9,756,000	0	9,756,000	10,456,000	△ 700,000
受取補助金	4,500,000	3,000,000	2,300,000	100,000	9,900,000	0	9,900,000	5,400,000	4,500,000
受取補助金				100,000		0	0	100,000	△ 100,000
受取寄付金		3,000,000				0	0	0	0
受取助成金	4,500,000		2,300,000			0	0	5,300,000	△ 5,300,000
雑収益	110,000	0	0	0	110,000	1,000	111,000	111,000	0
受取利息						1,000	1,000	1,000	0
雑収益	110,000					0	0	110,000	△ 110,000
経常収益計	93,586,000	8,428,000	3,000,000	19,542,500	124,556,500	18,443,500	143,000,000	126,000,000	17,000,000
（2）経常費用									
事業費	102,886,560	20,703,300	5,350,420	0	128,940,280	0	128,940,280	113,124,800	15,815,480
給料手当	9,522,500	1,465,000	732,500	0	11,720,000	0	11,720,000	12,000,000	△ 280,000
賞与引当金繰入額	866,450	133,300	66,650	0	1,066,400	0	1,066,400	1,160,000	△ 93,600
退職給付費用	390,000	60,000	30,000	0	480,000	0	480,000	640,000	△ 160,000
法定福利費	1,950,000	300,000	150,000	0	2,400,000	0	2,400,000	2,400,000	0
臨時雇用賃金	260,000	40,000	20,000	0	320,000	0	320,000	400,000	△ 80,000
会議費	1,929,600	1,527,600	160,800	0	3,618,000	0	3,618,000	2,763,000	855,000
旅費交通費	35,578,010	9,747,400	487,370	0	45,812,780	0	45,812,780	37,571,800	8,240,980
通信運搬費	1,565,600	1,071,200	82,400	0	2,719,200	0	2,719,200	2,019,600	699,600
印刷製本費	8,245,000	291,000	97,000	0	8,633,000	0	8,633,000	8,188,000	445,000
水道光熱費	87,500	37,500	0	0	125,000	0	125,000	100,000	25,000
食糧費	3,750,000	0	0	0	3,750,000	0	3,750,000	3,650,000	100,000
消耗品費	2,275,000	1,015,000	35,000	0	3,325,000	0	3,325,000	2,584,000	741,000
備品費	55,000	100,000	0	0	155,000	0	155,000	124,000	31,000
賃借料	7,070,000	1,414,000	101,000	0	8,585,000	0	8,585,000	8,151,500	433,500
リース料	64,000	256,000	0	0	320,000	0	320,000	320,000	0
諸謝金	1,316,000	507,600	56,400	0	1,880,000	0	1,880,000	850,000	1,030,000
表彰費	3,440,000	860,000	0	0	4,300,000	0	4,300,000	1,600,000	2,700,000
渉外費	48,000	16,000	16,000	0	80,000	0	80,000	25,000	55,000
委託費	10,881,000	117,000	117,000	0	11,115,000	0	11,115,000	10,288,500	826,500
租税公課	1,600,000	0	0	0	1,600,000	0	1,600,000	1,600,000	0
支払負担金	11,061,600	1,508,400	3,184,400	0	15,754,400	0	15,754,400	15,754,400	0
雑費	931,300	236,300	13,900	0	1,181,500	0	1,181,500	935,000	246,500

	公益目的事業会計（内訳表）				公益目的事業 会計合計	法人会計	令和7年度 予算合計（A）	令和6年度 予算（C）	増減 （A－C）
	公1	公2	公3	共通					
管理費						14,059,720	14,059,720	12,875,200	1,184,520
給料手当				0	0	2,930,000	2,930,000	3,000,000	△ 70,000
賞与引当金繰入額				0	0	266,600	266,600	290,000	△ 23,400
退職給付費用				0	0	120,000	120,000	160,000	△ 40,000
法定福利費				0	0	600,000	600,000	600,000	0
臨時雇用賃金				0	0	80,000	80,000	100,000	△ 20,000
会議費				0	0	402,000	402,000	307,000	95,000
旅費交通費				0	0	2,924,220	2,924,220	2,398,200	526,020
通信運搬費				0	0	1,400,800	1,400,800	1,040,400	360,400
印刷製本費				0	0	1,067,000	1,067,000	1,012,000	55,000
水道光熱費				0	0	125,000	125,000	100,000	25,000
消耗品費				0	0	175,000	175,000	136,000	39,000
備品費				0	0	95,000	95,000	76,000	19,000
賃借料				0	0	1,515,000	1,515,000	1,438,500	76,500
リース料				0	0	80,000	80,000	80,000	0
渉外費				0	0	80,000	80,000	25,000	55,000
委託費				0	0	585,000	585,000	541,500	43,500
租税公課				0	0	400,000	400,000	400,000	0
支払い負担金				0	0	1,005,600	1,005,600	1,005,600	0
雑 費				0	0	208,500	208,500	165,000	43,500
経常費用計	102,886,560	20,703,300	5,350,420	0	128,940,280	14,059,720	143,000,000	126,000,000	17,000,000
当期経常増減額	△ 9,300,560	△ 12,275,300	△ 2,350,420	19,542,500	△ 4,383,780	4,383,780	0	0	0
2. 経常外増減の部									
（1）経常外収益									
経常外収益	0	0	0	0		0	0	0	
経常外収益計	0	0	0	0		0	0	0	
（2）経常外費用									
経常外費用	0	0	0	0		0	0	0	
経常外費用計	0	0	0	0		0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	0		0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 9,300,560	△ 12,275,300	△ 2,350,420	19,542,500	△ 4,383,780	4,383,780	0	0	

資料

令和7年度収支予算書（資金収支ベース）

令和7年4月1日～令和8年3月31日

科目	2025年度 予算額 (A)	2021度 予算額 (C)	増減 (A-C)	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
① 基本財産運用収入	4,000	4,000	0	
② 特定財産運用収入	6,000	6,000	0	
③ 会費収入	38,575,000	37,575,000	1,000,000	
④ 事業収入	84,648,000	72,448,000	12,200,000	
⑤ 受取負担金	9,756,000	10,456,000	△ 700,000	
⑥ 受取補助金	9,900,000	5,400,000	4,500,000	
⑦ 雑収入	111,000	111,000	0	
事業活動収入 計	143,000,000	126,000,000	17,000,000	
2. 事業活動支出				
① 事業費支出	128,940,280	113,124,800	15,815,480	
② 管理費支出	14,059,720	12,875,200	1,184,520	
事業活動支出 計	143,000,000	126,000,000	17,000,000	
事業活動収支差額	0	0	0	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
① ワールドユニバーシティゲームス派遣事業資産取崩収入	5,000,000	0	5,000,000	2025年度事業
② 海外ロードレース派遣積立資産取崩収入	0	2,000,000	△ 2,000,000	2025派遣なし
③ 世界大学クロスカントリー派遣積立資産取崩収入	2,000,000	0	2,000,000	2025年度事業
④ 競技者育成奨励事業積立資産取崩収入	2,000,000			
⑤ 普及指導者育成事業積立資産取崩収入	400,000			
投資活動収入 計	9,400,000	2,000,000	5,000,000	
2. 投資活動支出				
① ワールドユニバーシティゲームス派遣事業資産		0	0	
② 海外ロードレース派遣積立資産	0	0	0	
③ 世界大学クロスカントリー派遣積立資産	0	0	0	
④ 創立100周年事業積立資産	500,000	500,000	0	2028年度事業に向けて
⑤ 競技者育成奨励事業積立資産	6,000,000			個人選手権報奨金等
⑥ 普及指導者育成事業積立資産	1,000,000			5年計画
投資活動支出 計	7,500,000	500,000	0	
投資活動収支差額	1,900,000	1,500,000	5,000,000	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
① 借入金収入	-	-	0	
2. 財務活動支出				
① 借入金返済支出	-	-	0	
財務活動収支差額				
IV 予備費支出	-	-	0	
当期収支差額				
前期繰越収支差額	-	-	0	
次期繰越差額	-	-	0	

資料

【第17回定時社員総会開催】について

【協議事項】

1. 第17回定時社員総会招集の件
- ①日 時：令和7年6月21日(土)14:00～
- ②場 所：Web会議システムにて開催予定
2. 「第17回社員総会に出席しない社員は、書面または電磁的方法によって議決権を行使することができないこととする。」件

【定時社員総会予定議題】

【決議事項】

- 第1号議案 令和6年度(第13期)決算承認の件(2024年4月1日から2025年3月31日まで)
- 貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録承認の件
- 第2号議案：定款の改定について

【報告事項】

- ①令和6年度事業報告
- ②令和7年度日本学生陸上競技連合の会務について
- ③その他

資料

FISUワールドユニバーシティゲームズ(2025/ライン・ルール)
陸上競技日本代表選手団基幹役員

	WUG役職	氏名	所属	日本学連役職	
1	チームリーダー	安井 年文	青山学院大学	強化委員長補佐	理事
2	監督	米田 勝朗	名城大学	強化委員	
3	総務	黒須 雅弘	東海学園大学	強化委員	理事
4	総務	木越 清信	筑波大学	指導者会議運営委員長	

資料

FISUワールドユニバーシティゲームズ(2025/ライン・ルール)
選考会議：令和7年4月27日(日) 夕刻 於：グランドホテル神奈中平塚/会議室

WUG(2025/ライン・ルール)選手選考委員会(案)					
1	委員長	山下 誠	強化委員長		
2	副委員長	安井 年文	強化委員長補佐		基幹役員
3	副委員長	工藤 洋治	常務理事/法務担当		
4	委員	米田 勝朗	強化委員		基幹役員
5	委員	黒須 雅弘	強化委員		基幹役員
6	委員	木越 清信	指導者会議運営委員長		基幹役員
7	委員	山崎 一彦	日本陸連強化委員長		
8	委員	苅部 俊二	強化委員(短距離・ハードル部)		
9	委員	信岡沙希重	強化委員(短距離・ハードル部)		
10	委員	伊東 輝雄	強化副委員長(中・長距離部)		
11	委員	大後 栄治	強化委員(中・長距離部)		
12	委員	松井 一樹	強化委員(中・長距離部)		
13	委員	十倉みゆき	強化委員(中・長距離部)		
14	委員	今村 文男	強化委員(競歩部)		
15	委員	森長 正樹	強化委員(跳躍部)		
16	委員	岡田 雅次	強化委員(投てき部)		
17	委員	志賀 充	強化委員(混成競技部)		

【男子・女子競歩選考】 第19回日本学生20km競歩選手権大会/3月16日(能美)					
WUG競歩戦略検討委員会					
1	委員長	山下 誠	強化委員長		
2	委員	今村 文男	強化委員/競歩部長		
3	委員	酒井 俊幸	強化委員		
4	委員	清水 茂幸	強化委員		
5	委員	三浦 康二	強化委員		
6	委員	福島 洋樹	強化委員/北信越学連ヘッドコーチ		

【女子ハーフマラソン選考】 第28回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会/3月16日(松江)					
WUG女子ハーフマラソン戦略検討委員会					
1	委員長	山下 誠	強化委員長		
2	委員	米田 勝朗	強化委員		
3	委員	十倉みゆき	強化委員		
4	委員	鶴崎 健一	強化委員/中四国ヘッドコーチ		

資料

2025 オールスターナイト陸上
秩父宮賜杯第65回実業団・学生対抗陸上競技大会
学生代表選手選考要項

1. 大会名2025 オールスターナイト陸上
秩父宮賜杯第65回実業団・学生対抗陸上競技大会 JITA-IUAUJ CLASSIC MATCH
2. 大会位置づけGP シリーズ(大会グレード2 カテゴリー F)
3. 期 日2025年8月9日(土)
4. 会 場レモンガススタジアム平塚
5. 主 催一般社団法人日本実業団陸上競技連合、公益社団法人日本学生陸上競技連合
6. 後 援厚生労働省、スポーツ庁、日本陸上競技連盟 他
7. 編成方針1. 学生トップレベルの競技力を有する競技者であり、実業団チームと互角に戦えるチームを編成する。
2. 将来、FISU ワールドユニバーシティゲームズ大会、オリンピック大会を目指すなど、国際的にも活躍が期待される競技者で編成する。
8. 選考方法1. 日本学生陸上競技対校選手権大会(1位～8位の者)
2. 2025年1月1日(日)から6月22日(日)までの記録(上位者を候補とする)
3. 強化委員会からの推薦
※選考の優先順位は上記の順とする。
9. 選考について2025年度公益社団法人日本学生陸上競技連合普通会員のうち、上記選考競技会において、各個人種目記録の上位から出場を希望するもの3名を選考。
10. 競技種目◇男子9種目
100m、400m、800m、110mH、400mH、走幅跳、棒高跳、円盤投、やり投
◇女子9種目
100m、400m、800m、100mH、400mH、走高跳、三段跳、砲丸投、ハンマー投
◇ユニバーサル
男女混合4×400mR
11. 表 彰1. 表彰は総合並びに男女各優勝チームと個人において優秀な成績を取めた競技者に下記の賞を授与する。
2. 個人種目の表彰は第3位まで賞金を与える。
1位：5万円 2位：3万円 3位：2万円
3. 日本記録、日本最高記録、日本学生記録、大会新記録を樹立した者には別の副賞を与える。
【団体】
総合優勝チーム 秩父宮賜杯
総合優勝チーム 内閣総理大臣杯(予定)
男子優勝チーム 文部科学大臣杯(予定)
女子優勝チーム 厚生労働大臣杯(予定)
【個人】
最優秀選手賞 (男子) 学生連合会長杯
最優秀選手賞 (女子) 実業団連合会長杯
敢闘賞 (男女) 平塚市長杯
M I P 賞 (男女) 河野一郎杯
12. 旅費・宿泊費旅費及び宿泊費は本部負担とする。※詳細は、大会要項に記載
13. その他1. 出場競技者は、所属チームの公式ユニフォーム着用のこと。
2. 実業団チームの合意があればオープン参加を認める場合がある。
(但し、旅費・宿泊費は自己負担)

月 日	行事(報告内容)
12月14日(土)	第69回理事会 於:TKP新宿カンファレンスセンター
12月15日(日)～16日(月)	第94回日本IC/岡山下見 於:岡山市
12月18日(水)	SMBC/金融経済プログラム(SMBC/プロボノ計画)打合せ 於:SMBC本社
12月18日(水)	全日本大学駅伝 小委員会 オンライン会議
12月18日(水)	平塚市/令和7年度計画 打合せ 於:日本学連事務所
12月19日(木)	日本陸連/アスレティックアワード 於:東京ミッドタウン
12月20日(金)	WUG選考要項検討会議(日本学連) 於:オンライン会議
12月20日(金)	令和7年度アウトリーチ検討会議(医事委員会) 於:オンライン会議
12月23日(月)	スポーツ安全協会スポーツ活動普及奨励事業申請
12月23日(月)	WUG選考要項検討会議(日本学連/日本陸連) 於:オンライン会議
12月23日(月)	2025年度マーケティング活動(ジールコミュニケーション)
12月26日(木)	テレビ朝日 令和7年度事業に関する打合せミーティング 於:日本学連事務所
12月29日(日)～30日(月)	2024全日本大学女子選抜駅伝競走 (於:富士市、富士宮市)
2025年	
1月10日(金)	出雲市長/松本会長(年始あいさつ) 於:JR東海(品川)
1月10日(金)	令和7年度くじ助成金申請(日本スポーツ振興センター/陸上競技研究)
1月15日(水)	2025年度マーケティング活動(MIXI本社/渋谷)
1月16日(木)	臨時理事会 於 オンライン会議
1月20日(月)	ADK/長谷工コーポレーション企画打合せ 於:日本学連事務所
1月20日(月)	競技委員会 於:日本学連事務所/オンライン 併催
1月22日(水)	EXPO駅伝 打合せミーティング 於:オンライン会議
1月23日(木)	2025マーケティング活動(興和株式会社/日興日本語学院)
1月25日(土)	JAAF日本陸連 全国医務部長会議 於:オンライン会議
1月27日(月)	ミズノ株式会社 令和7年度事業協賛に関する打合せ 於:日本学連事務所
1月27日(月)	EXPO駅伝 打合せミーティング 於:オンライン会議
1月29日(水)	テレビ朝日 令和7年度事業に関する打合せミーティング 於:テレビ朝日
1月31日(金)	令和7年度出雲駅伝準備関係ミーティング 於:オンライン会議
2月 1日(土)～2日(日)	第28回日本学生ハーフンマラソン選手権大会 於:丸亀市
2月 2日(日)～3日(月)	第94回日本IC 準備会議 於:岡山市
2月 4日(火)	読売テレビ 令和7年度事業に関する打合せミーティング 於:日本学連事務所
2月 5日(水)	フジTV 令和7年度事業に関する打合せミーティング 於:日本学連事務所
2月10日(月)	関西テレビ 2/16男女混合駅伝 準備ミーティング 於:日本学連事務所
2月11日(火)	(SMBC協力)キッズインストラクター講習会 於:武蔵大学
2月12日(水)	令和7年度大会 神奈川陸協-挨拶・打合せ 於:神奈川陸協事務所
2月12日(水)	平塚競技場/個人選手権開催打合せ
2月13日(木)	SMBC 金経済プログラム実施におけるミーティング 於:オンライン会議
2月13日(木)	2025マーケティング活動(マイナビ) 於:日本学連事務所
2月15日(土)～16日(日)	JAAF全国競技運営責任者会議 於:NTC およびオンライン会議併催
2月16日(日)	第5回全国大学対校男女混合駅伝開催 於:長居公園
2月17日(月)	WUC/ JOC 事務局会議 オンライン会議
2月17日(月)	2026年 日本インカレ/個人選手権 開催検討会議 於:オンライン会議
2月18日(火)	(SMBC協力)キッズインストラクター体験会 於:千代田区立九段小学校
2月18日(火)	財務委員会 オンライン会議
2月18日(火)	競技委員会 於:日本学連事務所
2月19日(水)	2025マーケティング活動(SMBC) 於:SMBC本社
2月20日(木)	富士山女子駅伝交通対策会議 於:富士市
2月20日(木)	WUG事務処理打合せミーティング 於:日本陸連事務所
2月20日(木)	第94回日本IC報道部会 於:オンライン-日本学連事務所 併催
2月20日(木)	②テレビ朝日 令和7年度事業に関する打合せミーティング 於:テレビ朝日
2月21日(金)	SMBCプロボノ企画に関するミーティング 於:オンライン会議
2月21日(金)	指導者会議運営委員会 オンライン会議
2月22日(土)	クロカン日本選手権(福岡クロカン) 開催(共催事業) 於:福岡市
2月26日(水)	JAAF2025年度登録説明会 オンライン会議
2月27日(木)	企画委員会 オンライン会議
2月27日(木)	②SMBCプロボノ企画に関するミーティング 於:オンライン会議
2月28日(金)	マーケティングミーティング(中長期計画) 於:日本学連事務所
2月28日(金)	総務委員会 於:オンライン-日本学連事務所 併催
3月 7(金)～8日(土)	幹部役員研修会 於:渋谷/青少年総合センター
3月 8日(土)	栄章贈与式 日本学生新記録章 於:新宿カンファレンスセンター
3月 8日(土)	第71回理事会 於:新宿カンファレンスセンター
3月 8日(土)	第70回指導者会議 於:新宿カンファレンスセンター

【会議報告】

第72回理事会

1. 開催日時

令和7年4月18日(金) 17時33分～

2. 開催場所

オンライン会議システム (Zoom) による開催

3. 理事総数および定足数

現在 22 名、定足数 12 名

4. 出席理事数：18 名

(出席理事) 秋元 恵美、有吉 正博、岡崎 朋美、
小倉 幸雄、片平 誠人、蒲原 一之、苅部 俊二、
工藤 洋治、黒須 雅弘、障子 恵、大後 栄治、
鶴崎 健一、永井 純、長澤 光雄、日隈 広至、
広川龍太郎、安井 年文、山下 誠

(出席監事) 細萱 智大、山本 俊樹

(欠席理事) 北井 敏雄、関根 春幸、福島 洋樹、
松本 正之

(オブザーバー) 船原 勝英

5. 議題

【協議事項】

第1号議案：加盟校の不適切事案に対する処分について

第2号議案：処分規程条項番号の訂正について

第3号議案：令和7年度関東学連推薦正会員について

第4号議案：その他

6. 議事の経過およびその結果

(1) 定足数の確認

(2) 議長および議事録署名人の選出

(3) 議案の審議および議決結果等

第1号議案：加盟校の不適切事案に対する処分について

経緯の説明ののち以下の2点について審議を行った。

(1) 流通経済大学陸上競技部への「処分」の内容

・大学に対する「競技会の開催禁止処分」は、既に関東学連で処分を課しているため、日本学連として重ねて課す必要はない。

・指導者個人に対する処分として、関東学連と同じ内容(※)で、「日本学連主催競技会への一定期間の参加禁止」処分を課す。

(※) 2008 年当初から関わっていた指導者 3 名：2 年間

2012 年から投てきコーチの現監督：1 年 6 カ月間

審議の結果、指導者個人への処分については提案通り、全会一致で可決された。

続いて、過去の日本学連主催競技会の「記録」と「成績」について審議が行われた。

審議では A～C の 3 案が示され、内容についていろいろな意見が述べられたが、多数決による採決の結果、A 案 2 票、B 案 0 票、C 案 16 票で、C 案が賛成多数として可決された。

※C 案＝抹消しない。なお、今後の他事案においては、事案の具体的内容に応じて判断する。

第3号議案：令和7年度関東学連推薦正会員について

永井議長より説明および提案があった。

関東学連から追加正会員の推薦があるので以下の2名についてご承認をいただきたい。

①両角 速(もろずみ はやし)

(関東学連 駅伝対策副委員長)

②柳澤真宏(やなぎさわ まさひろ)

(関東学連 財務委員会副委員長)

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第4号議案：その他

大西事務局長より説明、4月の初めに WR k の申請について、地区学連のヘッドコーチと事務担当者、および加盟校の陸上競技部指導者と運営監督者の方たちに向けて、資料の通り発信した。

理由として、WR k の申請料の支払いについて、これまでは日本陸連が取りまとめて WA に手続きをしていたが、令和7年度からは陸協や日本学連といった各団体ごとに集約し、手続きを行うことになった。これまでは日本陸連規定の 4000 円の申請料を地区学連や加盟校から集金し、日本陸連に支払っていたが、今年度からは日本学連が集約し、1 大会当たり 25 ユーロで海外送金することとなった。現在の為替や海外送金の手数料などを踏まえて計算すると 1 大会 4000 円では足りないことから 5000 円に設定することとした。この件に関しては、4月21日が7月以降に開催する WR k の申請締切日となっているため、すでに発信を行っており、事後承認という形でご承認をいただきたい。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

◆はじめに

当初、WRk申請競技会は日本陸連の方針として、日本陸連主催大会で高校生以上が参加する大会、GPシリーズ、地域選手権、国体選考会、全日本実業団主催大会、地域実業団選手権、日本学連主催大会、地区インカレ等を対象にスタートしました。

日本学連は、学生が中心になって運営する競技会も、世界を目指す選手育成のため、また、よりレベルの高い運営力を身に着けることなど、高みを目指すためにWRkの申請を幅広く受け付けております。各加盟校主催競技会の運営担当者におかれましては、WRkの申請および運営について、今一度規則を確認いただき、正しいWRkの競技会運営が実施されますよう関係の皆様へ周知いただきたくよろしくお願い申し上げます。

【令和7年度の留意事項】

1. リマインド：競技会開催においては、競技会規則（CR）競技規則（TR）はWA規則に準拠していなければなりません。投てき物はWA認証品を使用するなど、WA規則に沿った器具の使用が求められます。
2. 令和7年度から、日本学連が受付するWRkはWAへの申請料送金も含め、多くの責任を負うことになりました。よって、申請期日のルールを厳守いたします。（今まではイレギュラーな申請も受領していた）
3. 申請料は海外送金手数料も含め1競技会につき5000円とします。（7月～開催分より）
4. 令和7年度競技運営監督者の資格について
WA規則に準じて競技が行われていることを監督する者は、基本的に中立である第三者が執り行うべきであり、次の条件を満たす必要がある。
（1）日本陸連の登録会員
（2）A級以上の公認審判員かつ審判長経験者（A級取得後10年以上の者が望ましい）
（3）他の加盟団体登録会員：
しかしながら、この条件を満たすことが困難である場合、次のいずれかの条件を満たすことで、これに代えることができる。
①加入団体／協力団体が競技会を主催する場合、利害関係がない他の加入団体の登録会員
②WAから競技結果について疑義が生じ、問い合わせがあった場合に責任を持って事情が説明出来る登録会員
※上記の競技運営監督者は、WRk競技会において、WAレフェリーが審判長、主任を務めるようになれば不要なポジションです。現行の措置は日本陸連登録会員がWAレフェリー資格を取得し、国内配置が完了するまでの過渡期的措置です。
※令和8年度より、WAレフェリー（ブロンズ以上）の審判長および主任を置くことが必須となる予定です。申請後、条件を満たすことができなくなった場合は強行せずWRkを取り下げる手続きをお願いいたします。
5. WRk申請競技会は適正な運営がなされているかどうか、不定期に競技会の視察を実施する予定です。
6. 昨今、大学主催の競技会運営において不適切な運営により処分されるケースが複数出ております。WRk申請競技会は、主催大学や地区学連、日本学連の責任にとどまらず、日本陸連に対して影響が及ぶことも留意の上、競技会運営に当たってください。

【会議報告】

第73回理事会

1. 開催日時

令和7年4月28日(月) 17時30分～18時25分

2. 開催場所

オンライン会議システム (Zoom) による開催

資料 FISU ワールドユニバーシティゲームズ (2025/ライン・ルール) 日本代表選手の推薦決定について

◇大会概要

- 大会名 FISU ワールドユニバーシティゲームズ (2025/ライン・ルール)
- 期 日 2025年7月16日(水)～7月27日(日)
※陸上競技開催：7月21日(月)～27日(日)
- 場 所 ドイツ/ライン・ルール

◇日本代表選手一覧 合計47名 (男子28名 女子19名)

男女	種目	氏名	フリガナ	学年	所属
男子	100m	柳田 大輝	ヤナギタ ヒロキ	4	東洋大学
	100m	大石 凌功	オオishi リク	3	東洋大学
	200m	豊岐 元太	イキ ゲンタ	4	京都産業大学
	200m	植松 康太	ウエマツ コウタ	2	中央大学
	400m	平川 慧	ヒラカワ キラ	2	東洋大学
	800m	落合 晃	オチアイ コウ	1	駒澤大学
	800m	岡村 颯太	オカムラ ソウタ	3	鹿屋体育大学
	1500m	前田 陽向	マエダ ヒナタ	4	環太平洋大学
	1500m	大野 聖登	オオノ キョト	3	順天堂大学
	5000m	鈴木 琉胤	スズキ ルイ	1	早稲田大学
	ハーフマラソン	工藤 慎作	クドウ シンサク	3	早稲田大学
	ハーフマラソン	馬場 賢人	ババ ケント	4	立教大学
	ハーフマラソン	上原 琉翔	ウエハラ リュウト	4	國學院大学
	20kmW	原 圭佑	ハラ ケイスケ	M1	京都大学
	20kmW	吉迫 大成	ヨシザコ タイセイ	3	東京学芸大学
	20kmW	土屋 温希	ツチヤ アツキ	4	立命館大学
	110mH	阿部 竜希	アベ タツキ	4	順天堂大学
	110mH	樋口 隼人	ヒグチ ハヤト	4	筑波大学
	400mH	高橋 遼将	タカハシ リョウスケ	4	法政大学
	400mH	洲上 翔太	フチガミ ショウタ	2	早稲田大学
	3000mSC	佐々木 哲	ササキ テツ	1	早稲田大学
	走高跳	原口 颯太	ハラグチ ソウタ	3	順天堂大学
	走高跳	山中 駿	ヤマナカ シュン	M1	京都大学
	棒高跳	原口 篤志	ハラグチ アツシ	4	東大阪大学
	走幅跳	藤原 孝輝	フジハラ コウキ	M1	東洋大学
	三段跳	安立 雄斗	アダチ ユウト	M2	福岡大学
	やり投	鈴木 凜	スズキ リン	M1	九州共立大学
女子	やり投	清川 裕哉	キヨカワ ヒロヤ	4	東海大学
	100m	山形 愛羽	ヤマガタ アイハ	2	福岡大学
	100m	奥野 由萌	オクノ ユメ	4	甲南大学
	800m	西田 有里	ニシダ ユリ	2	立命館大学
	10000m	前田 彩花	マエダ アヤカ	3	関西大学
	10000m	細見 芽生	ホソミ メイ	1	名城大学
	10000m	橋本 和叶	ハシモト ワカナ	1	名城大学
	ハーフマラソン	土屋 舞琴	ツチヤマ コト	4	立命館大学
	ハーフマラソン	野田真理耶	ノダ マリヤ	3	大東文化大学
	ハーフマラソン	高橋 葵	タカハシ アオイ	4	城西大学
	20kmW	柳井 綾音	ヤナイ アヤネ	4	立命館大学
	20kmW	谷 純花	タニ スミカ	3	金沢学院大学
	100mH	島野 真生	シマノ マオ	M2	日本女子体育大学
	100mH	本田 伶	ホンダ レイ	M2	順天堂大学
	400mH	瀧野 未来	タキノ ミク	2	立命館大学
	3000mSC	山下 彩菜	ヤマシタ アヤナ	4	大阪学院大学
	走幅跳	乙津 美月	オツ ミツキ	4	日本女子体育大学
	走幅跳	木村 美海	キムラ ミウ	M3	四国大学
	ハンマー投	村上 来花	ムラカミ ライカ	4	九州共立大学
	やり投	村上 碧海	ムラカミ アオイ	4	日本体育大学

※1. 正式には、JOCに推薦した後、JOCの認定手続きをもって決定となる。

※2. 故障などのために代表を取り消した場合に、エントリー締切り前であるときは、別の競技者(同一種目は限らない。)を代表選手として追加選考することがある。

3. 理事総数および定足数

現在22名、定足数12名

4. 出席理事数：19名

(出席理事) 秋元 恵美、有吉 正博、岡崎 朋美、小倉 幸雄、片平 誠人、蒲原 一之、苅部 俊二、北井 敏雄、工藤 洋治、黒須 雅弘、障子 恵、大後 栄治、鶴崎 健一、永井 純、長澤 光雄、日隈 広至、広川龍太郎、安井 年文、山下 誠

(出席監事) 細萱 智大、山本 俊樹

(欠席理事) 関根 春幸、福島 洋樹、松本 正之

5. 議題

FISU ワールドユニバーシティゲームズ (2025/ライン・ルール) 日本代表選手・役員選考について

6. 議事の経過およびその結果

- (1) 定足数の確認
- (2) 議長および議事録署名人の選出
- (3) 議案の審議および議決結果等

【協議事項】

1号議案：FISU ワールドユニバーシティゲームズ (2025/ライン・ルール) 日本代表選手・役員選考について

4月27日(日)16時30分から開催されたWUG日本代表選考委員会の選考過程について、山下委員長より資料に基づき説明、また、工藤副委員長より補足説明があり、男子28名、女子19名の候補者について提案があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

続いて、帯同するスタッフについて、資料に基づき永井議長より説明があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

資料 FISU ワールドユニバーシティゲームズ (2025/ライン・ルール) 役員一覧

No	役職	氏名	所属
1	チームリーダー	安井 年文	青山学院大学
2	監督	米田 勝朗	名城大学
3	総務	黒須 雅弘	東海学園大学
4	総務	木越 清信	筑波大学
5	ドクター	金子 晴香	順天堂大学
6	トレーナー	村上 博之	村上鍼灸治療院
7	トレーナー	大江 志保	リニアート
8	トレーナー	矢嶋 友美	T.S Serve Trainer Team
9	コーチ	苅部 俊二	法政大学
10	コーチ	遠藤 俊典	青山学院大学
11	コーチ	吉岡 利貢	環太平洋大学
12	コーチ	大後 栄治	神奈川大学
13	コーチ	杉林 孝法	順天堂大学
14	コーチ	足田 晃久	九州共立大学
15	コーチ	横川 佑香	日本学連
No	役職	氏名	所属
1	アディショナルコーチ	前田 康弘	國學院大学
2	アディショナルコーチ	三浦 康二	大塚製薬

【会議報告】

令和6年度 第70回指導者会議

・開催日

令和7年3月8日(土)

・開催方法

対面およびオンライン会議

・会議プログラム

日本学連における今後の指導者施策

1. 総務委員として指導者に期待したいこと

IDカードの不正利用問題、学生競技者の競技を見せて収益を得ている自覚

2. 競技委員会として指導者に期待したいこと

競技会に関する指導者からのクレームを阻止するための情報共有工夫

・演者

プログラム1 障子 恵(総務委員会 委員長)

プログラム2 羽田 雄一(競技委員会 副委員長)

・司会 船原 勝英(倫理委員会 委員長)

本稿では会議の概要について報告する。

【プログラム1】

・競技会の環境整備

障子) 競技者が安心して競技に集中できる環境を整える必要がある。したがって、来場者をIDで管理している。学生については会員証の提示、日本学連の関係者や来賓・スポンサーの方は受付での顔認証、報道関係者も事前申込の上、当日は名刺の提示により入場を許可している。監督、コーチ、チームスタッフについて、監督については確認するシステムがあるが、コーチ、チームスタッフについてはない。

・チームスタッフの制限

2020年以降、エントリーしている選手の人数からチームスタッフのIDカード発行枚数を制限している。もちろんチームスタッフの中でも学生のスタッフは正会員のため、会員証の提示により中に入ることができる。ちなみに2022年より日本インカレはチケットを1枚2,000円で販売している。過去3年間のチームスタッフのID発行枚数は、各年800~900枚で、単純計算で4日間ともチームスタッフが来た場合、6,400,000円/年の入場料収入が本当はあるというこ

とになる。

・不正入場とハラスメントの事例

不正入場の例として、会員証やIDを回して入場するという事例が多く見受けられる。学生においても学生証をコピーして不正をしようとする人がいる。また、階段を上って、そこから落としてIDを使い回すという事例也多発している。これは学生だけではなく、チームスタッフでも非常に多い。コーチ陣でも不正入場しようとしてくるケースがある。つまり、誰が入場しているのか特定できない環境がここに来ていて、ハラスメントの事例としては、IDを持っていないにもかかわらずコーチだからという理由で入場を認めるよう学生幹事や補助員に恫喝するようなことが過去にあった。

・チームスタッフ登録制度の導入

どの立場でこの競技会に来ているのか、そしてその来ている方は所属大学が認めているのかということをしかりと把握するために、登録制度の導入を提案したい。具体的には顔写真付きのIDの発行である。これはコーチ、スタッフ、監督だけではなく正会員、普通会員も含めて考える。そして、ID発行の際に登録料をいただくことも考えている。学生に関しては学連登録の際に、登録料を払っているのだからそれを会員証の費用とする。登録制度ができれば指導者に正確な情報を届けることが可能になる。参考までに日本陸連では加入団体成立要件における指導者資格、審判資格の義務化ということで、「小学生もしくは中学生が登録する一般の加盟団体において、指導者資格および審判資格保持者が1名以上登録していること」ということが2027年度より適用される。これはルールを知っている指導者がチームに所属してジュニアを育成しようというところが目的だと認識しているが、大学では現時点ではこちらは適応外となる。しかしながら、正しい知識を持って、きちんとしたスタッフによる指導、部の運営が好ましいと考えるので、先駆けて日本学連でも導入したらどうかと考えている。

・ディスカッション、質疑応答

質問：女性のコーチ資格を持っている者の確保や、小規模校や地方でコーチ資格を有している者の確保は厳しいのが現状だが、どうお考えか。

障子) 女性でコーチ資格を有している者を確保するのは今後の課題である。

質問：日本学連が主体となってやるのはいいことだが、日本学連には8つの地区学連があるため環境の

違いがあったりすると思う。普通会員の登録の把握でさえ学生幹事に負担がかかっている。地区学連を含めコーチの登録制度は一朝一夕ではできない話かと思う。

障子) 今回提案させていただいたが、今年度からすぐやるということは現実的でない。しっかりと体制を整えたうえで何らかの形で登録をするシステムを作ったらどうかという提案である。

質問: 該当者はどういう理由でコーチとして選出されたのかということまで書く必要は出てくるのか。

障子) その大学が該当者をコーチとして認めているという事実を確認できれば良いと考える。

【プログラム2】

・初めに

羽田) 競技会に関する指導者からのクレームのほとんどは正しい情報が伝わっていないことに起因していると思われる。そのため、情報が共有される工夫が必要である。また、各大学で開催されている競技会の運営も学生に任せるだけでなく、指導者自身もルールに則った大会運営になっているかを意識する必要がある。特にWRk申請を行っている競技会についてはより注意が必要である。

・競技会参加にあたって

競技会に参加するにあたって、競技規則の内容をルールブックや陸連HPで把握していただきたい。合わせて、連合のHPに掲載している各種事項では競技会の運用について詳細に記しているので、そちらも確認をお願いしたい。さらに、競技会中に変更点が出た場合は、メール等でのお知らせもしている。2024年の日本インカレでは「競技注意事項」等の変更点を参加校に事前連絡したが、出場選手にしっかり伝わっている大学もあれば、全く伝わっていない大学もあった。さらに一部指導者からは、そんな連絡見るわけがないと非難された。しかし、「競技注意事項」を変更する理由は、WRk大会を行う上で必要なことであったり、競技者の負担軽減のためであったりするので、そのことを理解していただいた上で、必ず確認してほしい。

・競技規則について

ルールブックや日本陸連HPでの確認は各自で行う仕組みだが、日本陸連が毎年2月に実施している「全国競技運営責任者会議」にて各陸協・団体へ競技規則の修改正について伝達している場がある。これはルール改正があったことを知らせるものである。2月～3月にかけて、各陸協で伝達講習会も実施してい

る。学連も幹事長・副幹事長が参加している。日本学連でも加盟校向けに伝達講習会、具体的には動画を作成し、何度も視聴できるようにしたらどうかと考えている。また、先ほど障子総務委員長からお話があった通り、指導者登録制度を取り入れた場合、登録された指導者にも動画の配信をすることが可能になる。

・競技会中の講義

抗議に来る際は、感情的にならず冷静な状態でかつルールを把握したうえで来てほしい。

・WRk競技会開催にあたって

2026年以降にWRk競技会の審判長・審判主任はWAレフェリー資格者(ブロンズレフェリー以上)を配置することが求められることになるかもしれない。指導者資格の制度とともに、指導者の審判資格取得についても今後検討していく必要が出てくる可能性がある。

・ディスカッション・質疑応答

質問: 何か記載を変えた際は太字でアンダーラインを引くだとか、伝え方をもっと工夫すべき。長く書くとも読まないの、シンプルな箇条書きで文字数をできる限り減らして、注意を引くようにすべきである。

羽田) 最終的には競技注意事項を読んでいない方が悪いという思いがこちらにあったことも否めないの、もう少しわかりやすく表現するという工夫の必要性を感じ、ご意見を参考に変わってきたい。

【本シンポジウムの感想】

参加者) この会を通して現場の先生方、そして指導者としての役割をなしていない方もいるという現実を感じた次第だ。対校戦となると自分のチームの選手の出場が大きな役割を果たすかと思うが、そこにコール漏れのような事象があると少し感情的にかかわってしまう方がいて、それはどうかと思う。現場の指導者がタイムマネジメントをするというスタッフとしての役割が全くなされていない。これから考えていかなきゃいけないテーマなのかなと思った。

第50回学生幹部役員研修会

常任幹事 村上 奈穂

1. 会議名：第50回学生幹部役員研修会
2. 期 日：2025年3月7日（金）～3月8日（土）
3. 場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター
センター棟307号室

4. 派遣学生幹事（敬称略）：計29名

三浦 拓也、桑原 悠真、横川 侑香、村上 奈穂、
河本 賀帆、旭 来夏、原口 優芽、北外 翔生、
出口 鈴葉、成田 ことり、橘 慎吾、次呂久 直子、
新井 瑞己、長束 文、永井 望ノ美、吉村 美絵子、
村木 祐真、浅野 蒼空、長島 千紘、福原 幹太、
岡 俊輔、正井 遥希、山田 祐希奈、藤岡 奈乃子、
葉玉 純、黒神 郁人、小崎 康志郎、伊津野 志、
大塚 優斗

5. 総 括

今回の学生幹部役員研修会は、昨年と同様に対面で2日間かけて開催いたしました。

アンチドーピングについて、競技会主催団体におけるコンプライアンスとガバナンスについて、公認競技会申

請および記録公認申請の手順や注意事項、2025競技規則修改正についてなど、広範囲の分野で研修を行いました。

また、座学での研修会に加え、「競技会における暑熱対策」をテーマに各地区学連の現状や対策案の発表・意見交換も行いました。発表が終了した後は、他地区で行われている対策を自分の地区でも導入したいという感想も多く上がりました。地球温暖化により年々気温が上昇しており、主催者として対策を講じることの重要性が増している昨今の状況の中、このような意見を交換し合える機会を設けることができたのは非常に意義のあることだと感じました。

各地区学連での様々な取り組みについて、毎年情報交換を行って学びが深まるばかりの本研修会ですが、今回の研修会でも各地区学連の交流が活発に行われ、非常に有意義なものとなりました。今後も各地区学連同士連携し、高め合いながら、学生陸上競技界の向上と進展に努めていくよう精進してまいります。

2024年日本学生新記録章贈与式

1. 日 時：令和7年3月8日（土）12：30～12：50
2. 場 所：T K P新宿カンファレンスルーム

2024年に日本学生新記録を樹立した以下の選手及び指導者に対し、日本学連・有吉副会長より、章記と報奨金が贈呈されました。

日本学生新記録

- リチャード エティエリ 東京国際大学
男子ハーフマラソン：59分32秒（2024年2月4日）
第76回九亀国際ハーフマラソン
指導者：東京国際大学陸上競技部・コーチ
中村 勇太（なかむら ゆうた）様
- 平林 清澄（ひらばやし きよと）國學院大学
男子マラソン：2時間06分18秒（2024年2月25日）
大阪マラソン2024
指導者：國學院大学陸上競技部・監督
前田 康弘（まえだ やすひろ）様
- 大竹 春樹（おおたけ はるき）早稲田大学
千田 杜真寿（ちだ とます）早稲田大学
関口 裕太（せきぐち ゆうた）早稲田大学
井上 直紀（いのうえ なおき）早稲田大学
男子4×100m R：38秒45（2024年9月21日）
第93回日本学生陸上競技対校選手権大会

指導者：早稲田大学競走部・監督

大前 祐介（おおまえ ゆうすけ）様

- 柳井 綾音（やない あやね）立命館大学
女子10000m W：43分49秒85（2024年7月6日）
ホクレン・ディスタンスチャレンジ2025北見大会
指導者：立命館大学陸上競技部・コーチ
十倉 みゆき（とくら みゆき）様

- 本田 怜（ほんだ れい）順天堂大学
女子100m H：13秒07（2024年8月18日）
第6回富士北麓ワールドトライアル
指導者：順天堂大学陸上競技部・短距離コーチ
福島 千里（ふくしま ちさと）様

- 村上 来花（むらかみ らいか）九州共立大学
女子ハンマー投：66m 82（2024年8月30日）
Athlete Night Games in FUKUI 2024
指導者：九州共立大学陸上競技部・監督
正田 晃久（ひきた あきひさ）様

- サラ ワンジル 大東文化大学
女子5000m：15分00秒68（2024年12月1日）
第318回日本体育大学長距離競技会
指導者：大東文化大学陸上競技部・女子長距離監督
外園 隆（ほかぞの たかし）様

【競技委員会より】

WRk (ワールドランキングポイント対象) 大会で 気をつけること

競技委員長 関根 春幸

■競技役員について

現在は明確に定義されていないが、将来的にはWA Bronze Referee以上の資格取得者が審判長及び判定に関わる部署の主任を務めることになる。それを踏まえて、現在は競技会運営がWA規則に則って行われているかどうかアドバイザーのできる部外者を最低1名は総務員として位置付け、対応にあたることとしている。

■記録について

CR31.1：個人種目では3人以上、リレー種目では2チーム以上が、その種目に誠意をもって参加していなければならない。TR9の条件下で行われフィールド種目とTR54、55に従って競技場の外で行われた種目を除き、競技者の記録は男女混合の競技で樹立されたものは承認されない。

記録が樹立されたら、記録申請書に以下のものを添付してできるだけ速やかに提出する。

CR31.7.1：競技会のプログラム（もしくは電子データ）

CR31.7.2：当該競技に関する全ての結果（本条の規定に基づいて提出が必要な情報も含む）

CR31.7.3：写真判定システムが使われたトラック種目の世界記録の場合は、フィニッシュの判定写真とゼロ・コントロールテストの写真

CR31.7.4：本条の規定に基づいて提出が求められるその他の情報

※U20記録は必要ないが、ドーピング検査が必要な種目もあるので、注意すること

※日本記録についてはCR34.3を参照すること

■競技場について

WRk大会には大会グレードというものが存在する。大部分の大会はFグレードの大会となっている。このグレードが上がれば上がるほど順位ポイントが追加になるため、同じ成績で競技をしてもポイントは高くなる。大会グレードを上げるためには競技場がWAのCLASS1あるいはCLASS2の評価を受けることが必要となる。大会規模や目的を考えて、競技を選ぶことも重要である。

■男女混合の競技

TR9.1：加盟団体の規則が適用されていれば、男女が一緒に競うリレーや男女混合チームで行う競技、男女が一つのカテゴリーで行う種目などの男女混合競技を行うことができる。

特にトラック種目（長距離や競歩など）で実施を検討する場合、厳格に規定されているので注意が必要である。

■スタート

TR16.8：混成競技を除いて、一度の不正スタートでも責任を有する競技者はスターターにより失格とさせられる。混成競技においては各レースで1回目の不正スタートは失格にならないが、その後不正スタートをした競技者は全て失格とする。

不正スタートに関する理解を深めること。

■風力測定

TR17.9：ワールドランキングコンペティション定義1.と2.(a)、(b)、(c)、(e)に該当する競技会、ならびに世界記録認定のために提出される成績には、非機械的（超音波）風向風速計を使用しなければならない。機械的風向風速計は横風の影響を受けないように保護する。また円筒を使用する場合、計測器の両側は円筒の直径の少なくとも2倍の長さがなければならない。

できるだけ非機械的（超音波）風向風速計を使用する。

■計時と写真判定

TR19.1：公式の計時方法として、次の三つが認められる。

TR19.1.1：手動計時

TR19.1.2：写真判定システムによる全自動計時（電気計時）

TR19.1.3：トランスポンダーシステムによる計時 尚、トランスポンダーシステムによる計時はTR54（競歩競技：競技場内で完全に実施されないレース）、TR55（道路競走）、TR56（クロスカントリー競走）、TR57（マウンテンレースとトレイルレース）で行われる競技に限定する。

WRk大会のトラック競技ではできるだけ写真判定システムによる全自動計時（電気計時）で計測する。800mまで種目は写真判定システムで計測した記録以外は認められていない。

■リレー競走

TR24.11：4×400m男女混合のチームは男女2名ずつで編成される。走る順番は男子-女子-男子-女子とする。

新たに2025年3月から追加された。

■投てき競技

TR32.1：ワールドランキングコンペティションで使用する用具（投てき物）は、WAが定める現行の規格に合致したものでなければならない。投てき物はWA認証品のみとする。

ただし、国内競技会の場合は本連盟の認証品でもあること。

■長さの競技（走幅跳・三段跳）・投てき競技の距離計測

TR29.9：跳躍の計測は有効試技終了後〔または、TR8.5に定める現場での抗議（競技中の抗議）が行われた後〕、直ちに行わなければならない。跳躍距離は身体の一部または着地する瞬間に身に着けていたものが着地場所に残した痕跡の踏切線に最も近い箇所から、踏切線またはその延長線上の地点までを計測する。計測は踏切線もしくはその延長線に対して直角に行う。

TR32.20：投てきの計測は有効試技終了後（または、TR8.5に定める本陸上競技連盟競技規則／競技規則・第3部フィールド競技場での抗議（競技中の抗議）が行われた後）、直ちに以下の通り計測しなければならない。投てき物の頭部が最初に落下した地点の痕跡から、以下の地点との距離を計測する。

どちらも有効試技終了後、直ちに行う。

■混成競技

TR39.8.4：混成競技のバーの上げ方は競技会全体を通じて一律に走高跳で3cm、棒高跳で10cmとしなければならない。

できる限りこの上げ方で対応する。または走高跳は3の倍数、棒高跳は10の倍数で上げていくことが望ましい。

令和6年 日本学生陸上競技連合

会員について(2024年度)

正会員 135名 普通会員 19,869名 賛助会員 15名

日本学生陸上競技連合 普通会員の各月変遷 単位：人

	北海道	東北	関東	北信越	東海	関西	中四国	九州	月合計
年度前	242	624	4,943	674	1,132	2,189	758	1,037	11,599
4月	250	146	2,646	146	350	1,002	823	402	5,765
5月	135	86	616	200	163	226	130	107	1,663
6月	14	37	126	23	39	145	51	50	485
7月	5	12	53	9	14	30	15	19	157
8月	3	1	40	1	2	31	5	5	88
9月	0	4	31	3	1	13	6	5	63
10月	2	0	14	1	3	7	4	2	33
11月	0	0	11	2	1	0	3	2	19
12月	0	0	2	0	7	2	0	0	11
1月	0	0	3	0	1	4	1	0	9
2月	0	0	6	0	0	3	0	0	9
退会者	0	0	-11	0	-10	-10	0	-1	-32
合計	651	910	8,480	1,059	1,703	3,642	1,796	1,628	19,869

前回理事会(12/14) 19,845名 ➡ 増員数 24 名

【参考：普通会員数の推移】

単位：人

年度	北海道	東北	関東	北信越	東海	関西	中国四国	九州	合計	前年比	5年前比	10年前比
2024	651	910	8,480	1,059	1,703	3,642	1,796	1,628	19,869	372 ↑	-427	413
2023	644	954	8,282	1,002	1,649	3,654	1,776	1,536	19,497	580 ↑	-1,245	923
2022	597	854	8,046	942	1,639	3,580	1,735	1,524	18,917	352 ↑	-1,866	743
2021	560	890	7,883	915	1,667	3,517	1,654	1,479	18,565	391 ↑	-2,132	687
2020	556	896	7,704	914	1,610	3,419	1,600	1,475	18,174	-2,122 ↓	-1,916	933
2019	702	979	8,373	996	1,938	3,764	1,787	1,757	20,296	-446 ↓	840	3,444
2018	726	1,017	8,487	1,024	2,073	3,808	1,832	1,775	20,742	-41 ↓	2,168	4,085
2017	749	973	8,588	1,009	2,098	3,758	1,853	1,755	20,783	86 ↑	2,609	4,450
2016	756	933	8,578	1,009	2,088	3,689	1,884	1,760	20,697	607 ↑	2,819	4,483
2015	705	943	8,221	1,021	2,007	3,547	1,904	1,742	20,090	634 ↑	2,849	4,269
2014	680	929	7,981	965	1,936	3,507	1,843	1,615	19,456	882 ↑	2,604	4,230
2013	628	914	7,547	903	1,835	3,383	1,781	1,583	18,574	400 ↑	1,917	3,991
2012	640	910	7,273	832	1,826	3,360	1,736	1,597	18,174	296 ↑	1,841	3,969
2011	711	933	7,065	834	1,756	3,236	1,723	1,620	17,878	637 ↑	1,664	3,929
2010	688	919	6,792	821	1,686	3,106	1,653	1,576	17,241	389 ↑	1,420	3,374
2009	715	878	6,641	879	1,611	3,000	1,630	1,498	16,852	195 ↑	1,626	2,920
2008	754	952	6,626	822	1,480	2,923	1,598	1,502	16,657	324 ↑	2,074	
2007	651	977	6,497	799	1,426	2,870	1,520	1,593	16,333	119 ↑	2,128	
2006	651	1,005	6,452	743	1,493	2,829	1,471	1,570	16,214	393 ↑	2,265	
2005	636	1,041	6,258	763	1,429	2,728	1,441	1,525	15,821	595 ↑	1,954	
2004	599	984	6,118	751	1,321	2,605	1,410	1,438	15,226	643 ↑	1,294	
2003	587	885	5,864	749	1,257	2,519	1,311	1,411	14,583	378 ↑		
2002	604	841	5,663	755	1,184	2,478	1,259	1,421	14,205			

令和7年度オフィシャルパートナー (4月30日現在)

公益社団法人日本学生陸上競技連合はご覧のオフィシャルパートナーの皆様にご支援いただいております。
心より感謝申し上げます。

三井住友フィナンシャルグループ	株式会社明治
株式会社ヤクルト本社	ミズノ株式会社
株式会社修和	株式会社メッセホールディングス
マツト株式会社	株式会社ジールコミュニケーションズ
日興日本語学院	興和株式会社
株式会社ティーズフューチャー	

令和7年度 賛助会員 (4月30日現在 五十音順、敬称略)

ご入会ありがとうございました

阿保 雅行 石黒 成彬 入江 毅 黒岩 重幸 小池 七郎 河野 洋平
櫻井 孝次 田中 淳浩 東川 安雄 藤井 邦夫 藤田 幸雄 山崎 健

この法人の目的及び活動に賛同し賛助する個人又は団体の方は、是非ご検討ください。

〈年会費〉 賛助会員 ￥10,000 (1口)

※年会費は毎年納入していただく必要があり、年度内(3月31日)まで有効となります。

※本法人への賛助会費は寄付として扱われ、所得税等の納税控除の対象となります。

〈特典〉 ・会報への氏名・団体名の記載

・天皇賜盃日本学生陸上競技対校選手権大会への無料入場

〔発行所〕公益社団法人 日本学生陸上競技連合 〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-11 中沢ビル2階
TEL 03-5304-5542 FAX 03-5304-5569

編集後記

会報第172号(令和7年1月20日発行)以降の事業では、令和7年2月2日に第28回日本学生ハーフマラソン選手権大会(香川丸亀国際ハーフマラソンと併催)が行われました。昨年までは立川シティハーフマラソンと併催していましたが、現場から開催時期を早めてほしい、記録の出るコースで、テレビ中継があるほうが学生のモチベーションが上がるなどの要求があり、長年お世話になった立川から丸亀に変更しました。レースでは日本学生新記録が出ました。また、多くの選手が自己記録を1分00秒〜1分30秒短縮するという大きな成果を上げました。今年7月にドイツで開催されるFISUワールドユニバーシティゲームズ(以下WUG)のハーフマラソンに3名を選考委員会に推薦することになりました。

令和7年3月8日には令和6年度の最終理事会が開催され、日本学生新記録を樹立した学生の表彰を行いました。令和7年3月16日には第28回日本学生女子ハーフマラソン(まつえレディースハーフマラソンと併催)と第19回日本学生20km競歩(全日本競歩能美大会と併催)が開催され、女子ハーフマラソンで3名が、男子20km競歩で3名がWUG選考委員会に推薦することが決まりました。

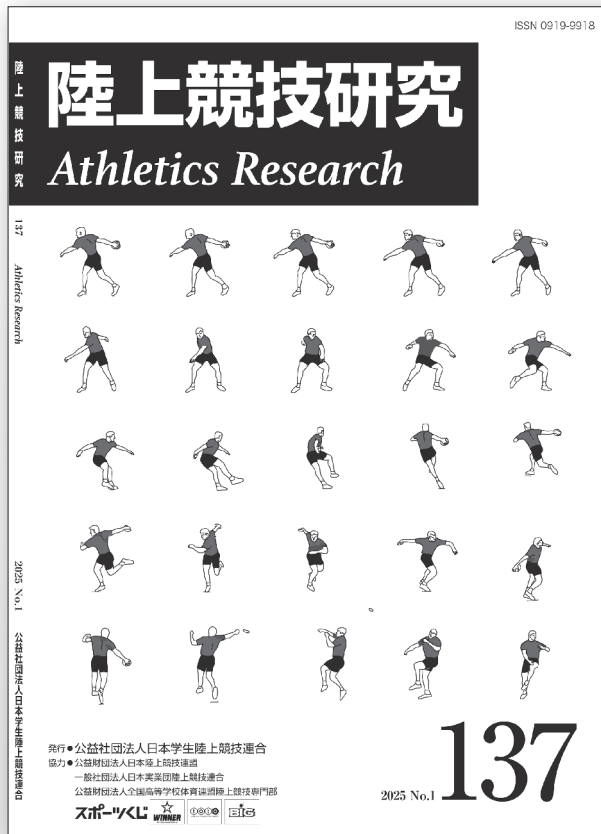
令和7年4月25日〜27日にはレモンガススタジアム平塚で2025日本学生陸上競技個人選手権兼2025WUG日本代表選考会が開催されました。コンディションに恵まれ、好記録が誕

生しました。その結果を踏まえ、2025WUG日本代表選手選考委員会では日本オリンピック委員会(JOC)から指定されている男子28名、女子19名を選考しました。翌日に臨時の理事会が開催され、山下誠強化委員長から選考の手順、選考の結果等の説明があり、全員一致で選考委員会からの提案が承認されました。また、コーチングスタッフ17名(アディショナルコーチ2名を含む)も承認されました。

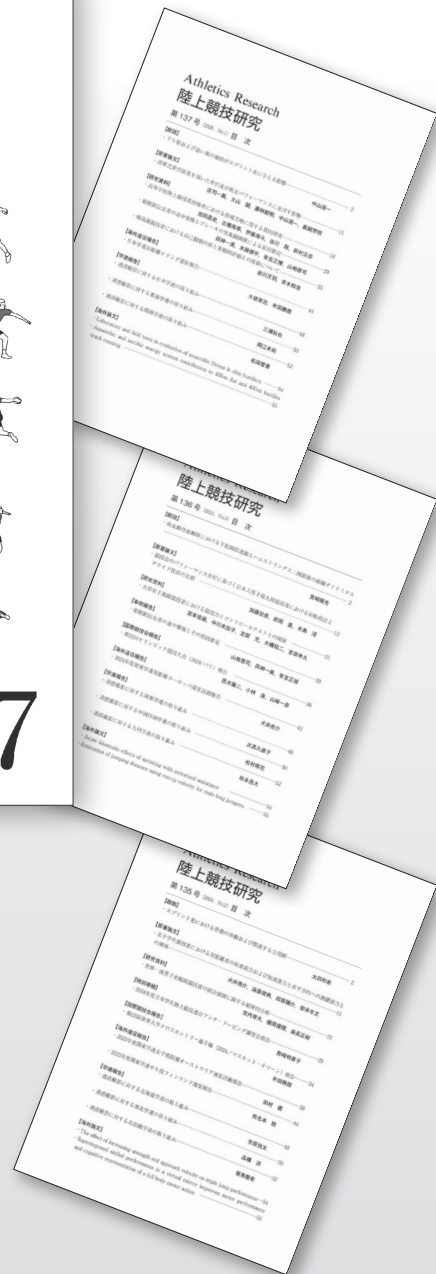
次の大きな事業は令和7年6月5日(木)〜8日(日)の天皇賜盃第94回日本学生陸上競技対校選手権大会(日本インカレ)になります。開催場所はJFE晴れの国スタジアム(岡山市)になります。従来は9月の第2週か第3週に開催していましたが、今年は9月下旬に世界陸上が国立競技場で開催されるため、日本インカレの開催時期、開催場所に悩み、なんとか開催の運びとなりました。令和8年は関東圏開催を予定しております。9月にアジア大会があるため、日程、開催場所は未定です。

日本学生陸上競技連合は年間10の競技会(T&F、ロード)を主催および併催しています。これらを順調に行うためには強化委員会、総務委員会、競技委員会、医事委員会の皆様方のご協力があって初めて成り立っています。皆様からいろいろご意見をお伺いしながら肅々と、令和7年度の事業計画を進めていくつもりです。今後とも進展と向上を目指したいと存じます。(副会長/専務理事 永井 純)

「陸上競技研究」購読のご案内



第 137 号
2025, No. 1
2025 年 2 月発行



公益社団法人 日本学生陸上競技連合は機関研究誌『陸上競技研究』を発行しています。
購読会員として入会ご希望の方は、年会費 (6,000 円) を下記へ郵便振替にてご送金ください。

口座記号番号 00190-4-142923

加入者名 (株)陸上競技社 陸上競技研究

通信欄に「何号から 1 年間」と必ず明記してください。
バックナンバーについては(株)陸上競技社 (TEL03-5215-8881) にお問い合わせください。
※第138号 (2025, No 2) は2025年 6 月発行予定です。